

# IR説明会

2025年度決算 及び 2026年度業績見通し

石原産業株式会社  
2026年5月18日

<お問い合わせ先>  
常務執行役員  
財務本部長 潮見 統一郎

# 目次

1. 全体総括
2. 2025年度 決算
3. 2026年度 業績予想
4. 事業別 業績概要
5. 付属資料

# 全体総括

代表取締役社長 大久保 浩

# Vision 2030 目標実現への道程

独創・加速・グローバル。  
化学の力で暮らしを変える。

**2025年度実績**

- 営業利益: **190億円**
- ROE: **13.7%**

**Stage II 目標**

- 営業利益: **190億円以上**  
(想定売上高:1,600億円以上)
- ROE: **10%以上**
- 連結配当性向: **40%**

**Stage I 2023 年度実績**

- 営業利益: **114億円**  
(売上高:1,384億円)
- ROE: **8%**
- 連結配当性向: **33%**

**Vision 2030  
Stage I**  
FY2021-2023

**Vision 2030  
Stage II**  
FY2024-2026

**Vision 2030  
Stage III**  
FY2027-2029

**Vision 2030 目標**

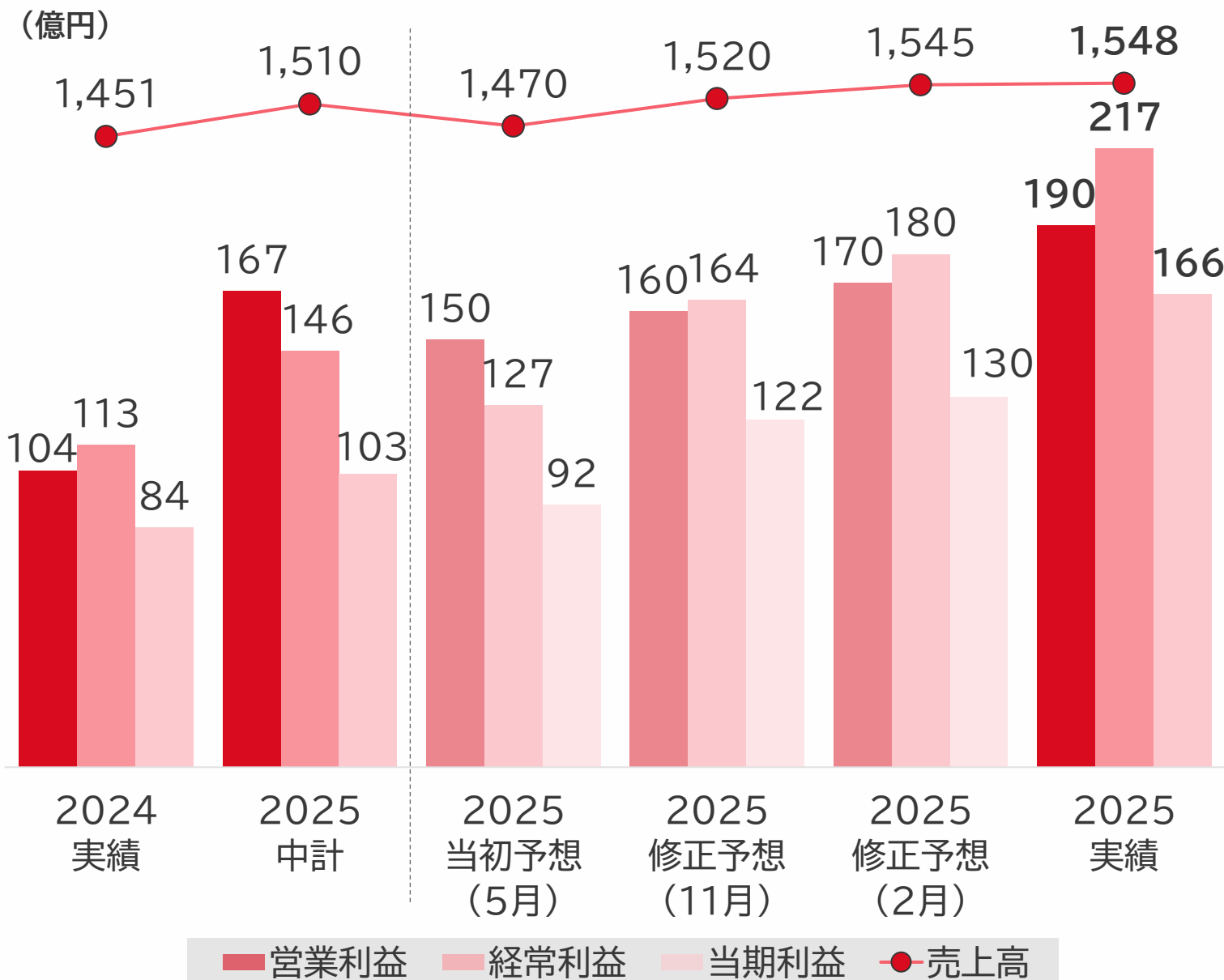
- 営業利益: **240億円**  
(想定売上高:1,800億円以上)
- ROE: **10%以上の安定確保**

さらなる企業価値の向上

技術開発での社会貢献

企業価値の向上

# 2025年度決算 連結業績



**●売上高 1,548億円**  
 (前年同期比 +97億円)

**■営業利益 190億円**  
 (前年同期比 +85億円)

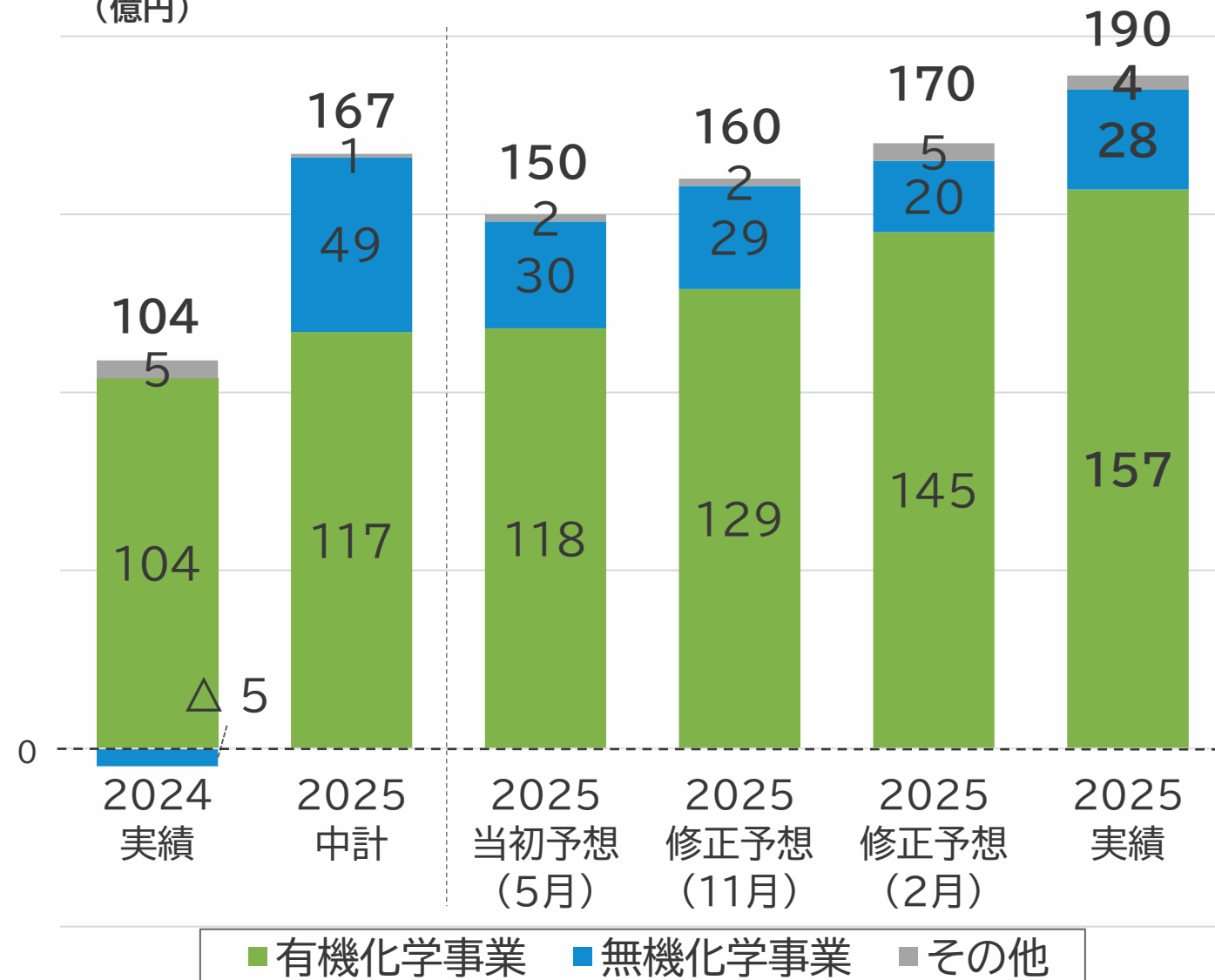
**■経常利益 217億円**  
 (前年同期比 +103億円)

**■当期純利益 166億円**  
 (前年同期比 +82億円)

為替レート	(円/USD)	(円/EUR)
2024実績	152.4	162.8
2025中計	140.0	150.0
2025当初予想(5月)	140.0	160.0
2025修正予想(11月)	147.0	169.1
2025修正予想(2月)	149.2	173.3
2025実績	151.7	175.5

# 2025年度 事業別営業利益

(億円)



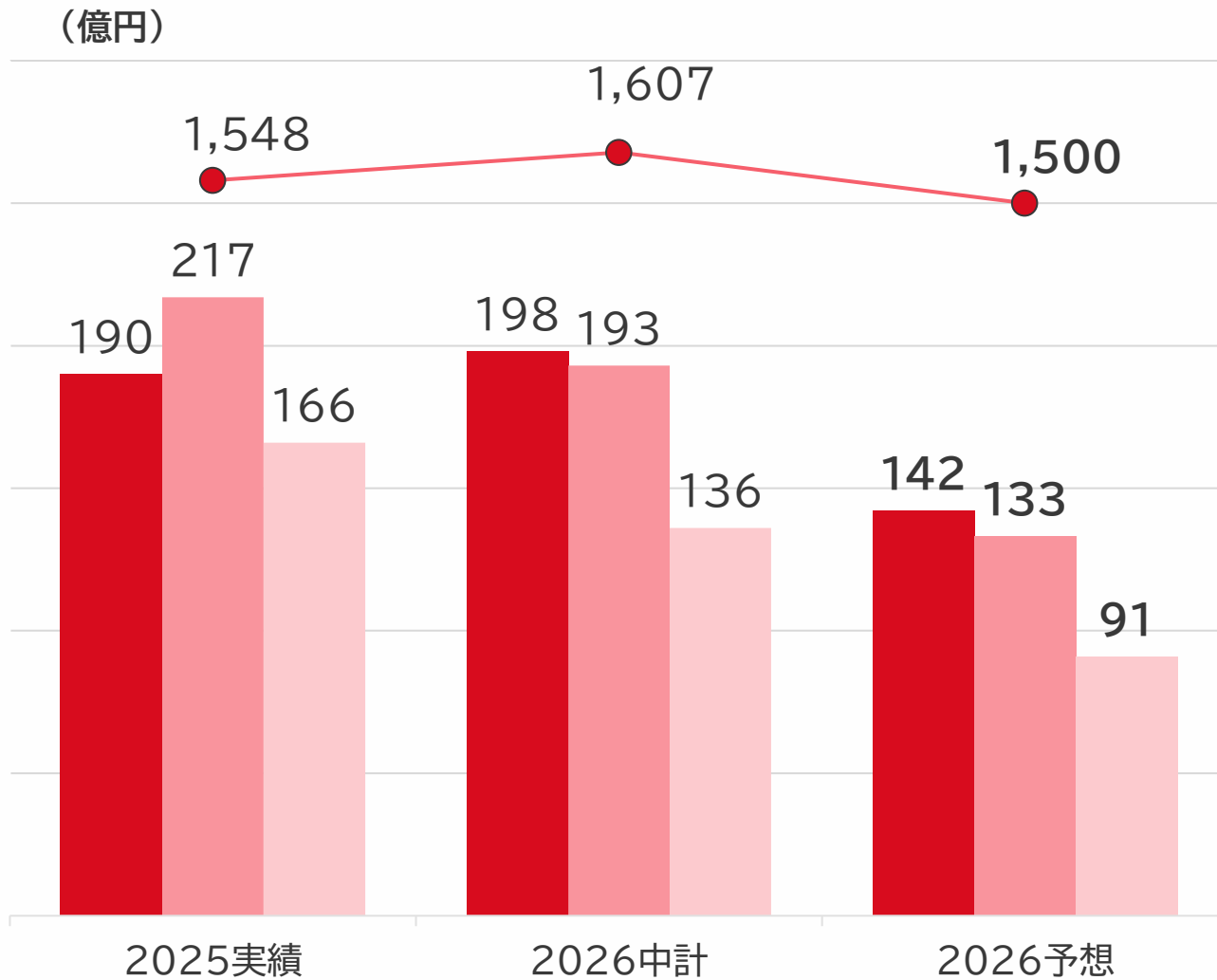
## ◆ 有機化学事業

農薬が天候要因による欧州の特需などにより海外販売が増加したことに加え、ユーロが前年度よりも円安であったことなどから、大幅に増益。

## ◆ 無機化学事業

電子材料の販売が堅調に推移。ファインケミカル(酸化チタン)は、需要低迷による厳しい状況が続くものの、製造コスト削減などで増益。

# 2026年度 連結業績予想



● 売上高 1,500億円

(前年同期比 △48億円)

■ 営業利益 142億円

(前年同期比 △48億円)

■ 経常利益 133億円

(前年同期比 △84億円)

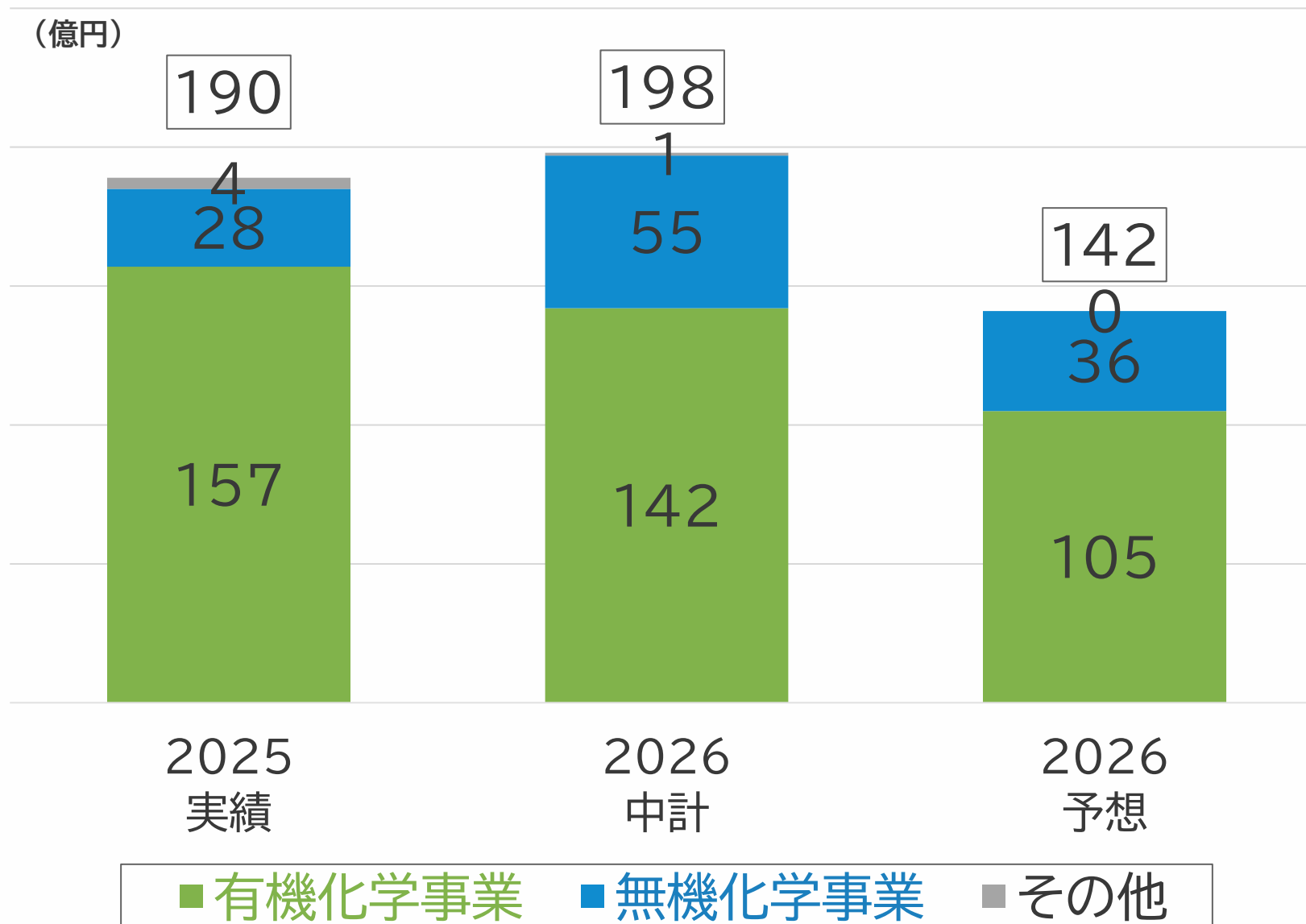
■ 当期純利益 91億円

(前年同期比 △75億円)

為替レート	(円/USD)	(円/EUR)
2025実績	151.7	175.5
2026中計	140.0	150.0
2026予想	155.0	180.0

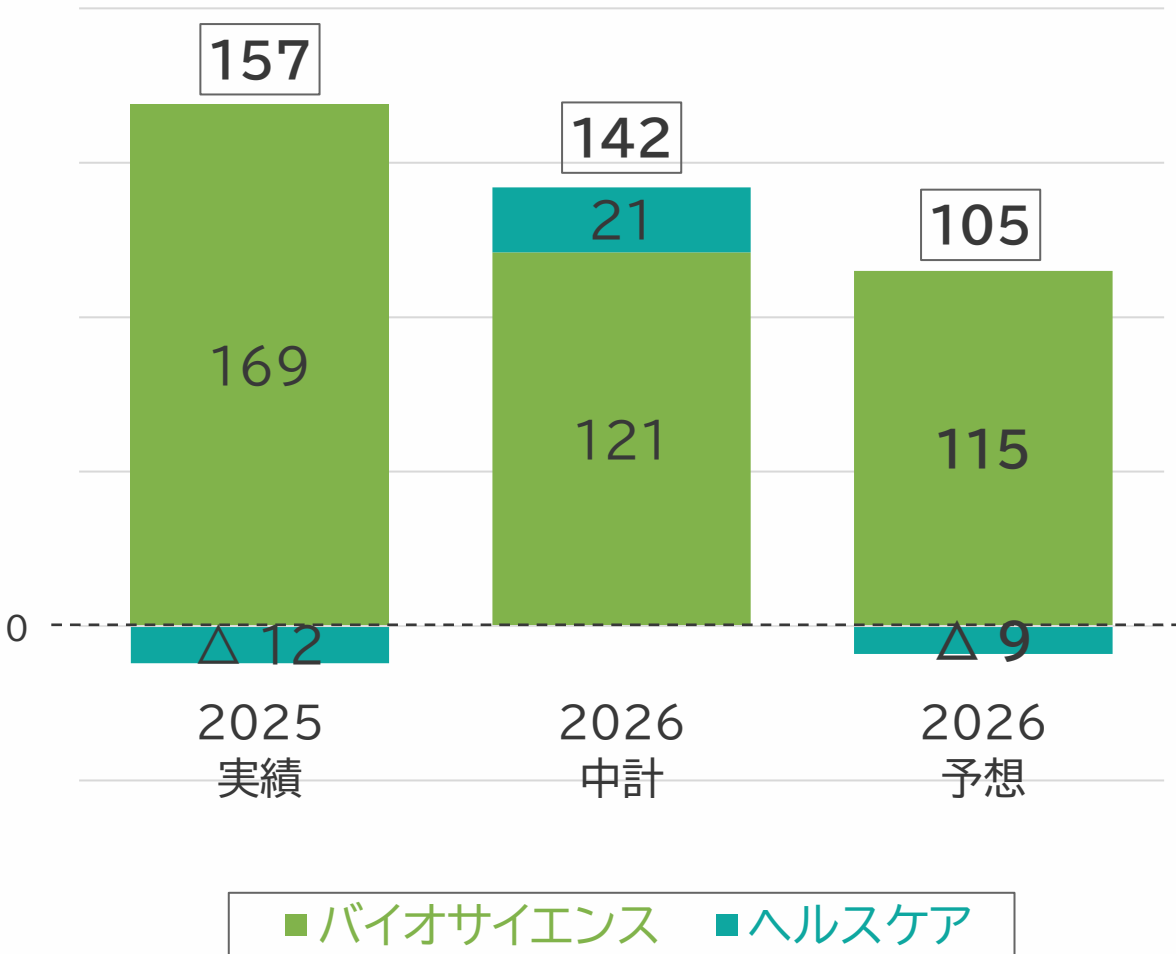
■ 営業利益 ■ 経常利益 ■ 当期利益 ● 売上高

# 2026年度業績予想 事業別営業利益



# 2026年度業績予想 事業別営業利益 <有機化学事業>

(億円)



## ◆ バイオサイエンス事業

前年度に発生した天候要因による欧州での特需を見込んでいないことに加えて、新規剤の開発費などの一過性費用の増加により、前年度から減益の見通し。

## ◆ ヘルスケア事業

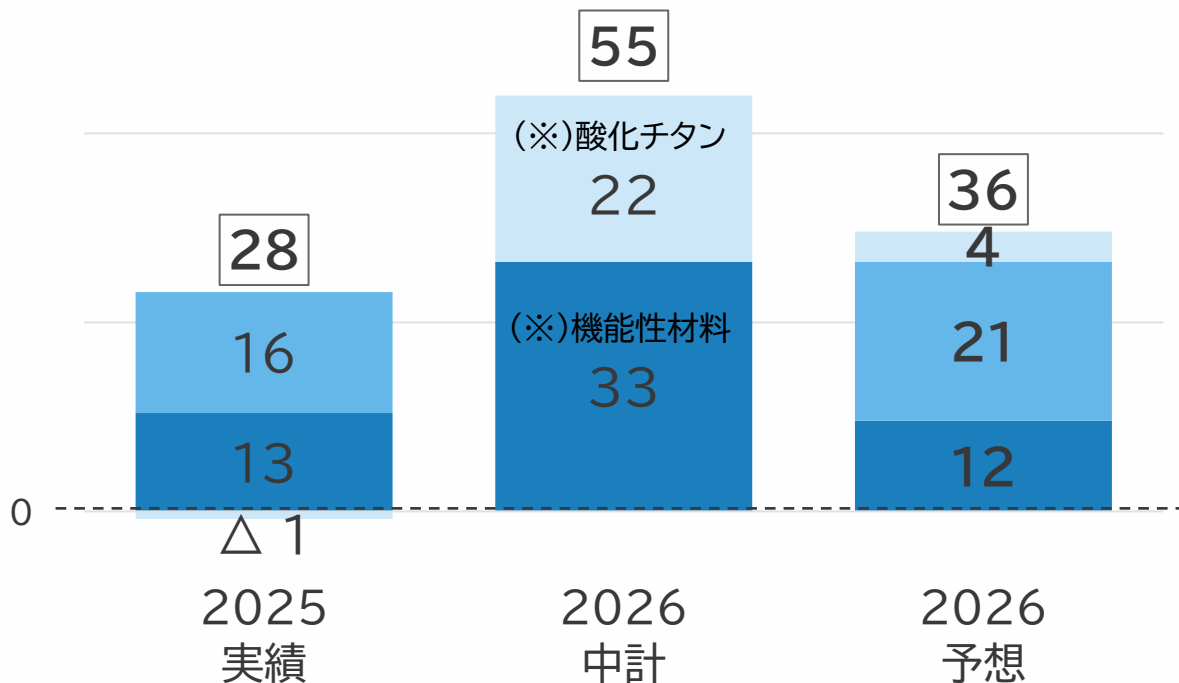
米国での動物用医薬品の完全承認に向けた研究開発費等の費用増により、営業赤字の見通し。

## ◆ 中東情勢による影響

2026年度必要分の調達目途はついており、現時点で大きな影響なし。

# 2026年度業績予想 事業別営業利益 <無機化学事業>

(億円)



■ 機能性色材 ■ 電子材料 ■ ファインケミカル

(※)2025年度より新サブセグメント基準で集約。  
2026中計は次の基準で読替。

機能性材料	電子材料
酸化チタン	機能性色材
	ファインケミカル

## ◆ 電子材料

電子材料は順調に伸長。

## ◆ ファインケミカル

汎用酸化チタンの需要低迷のほか、子会社 富士チタン工業の工場火災による影響(※)などのマイナス要因はあるが、販売価格改定などにより、増益の見通し。

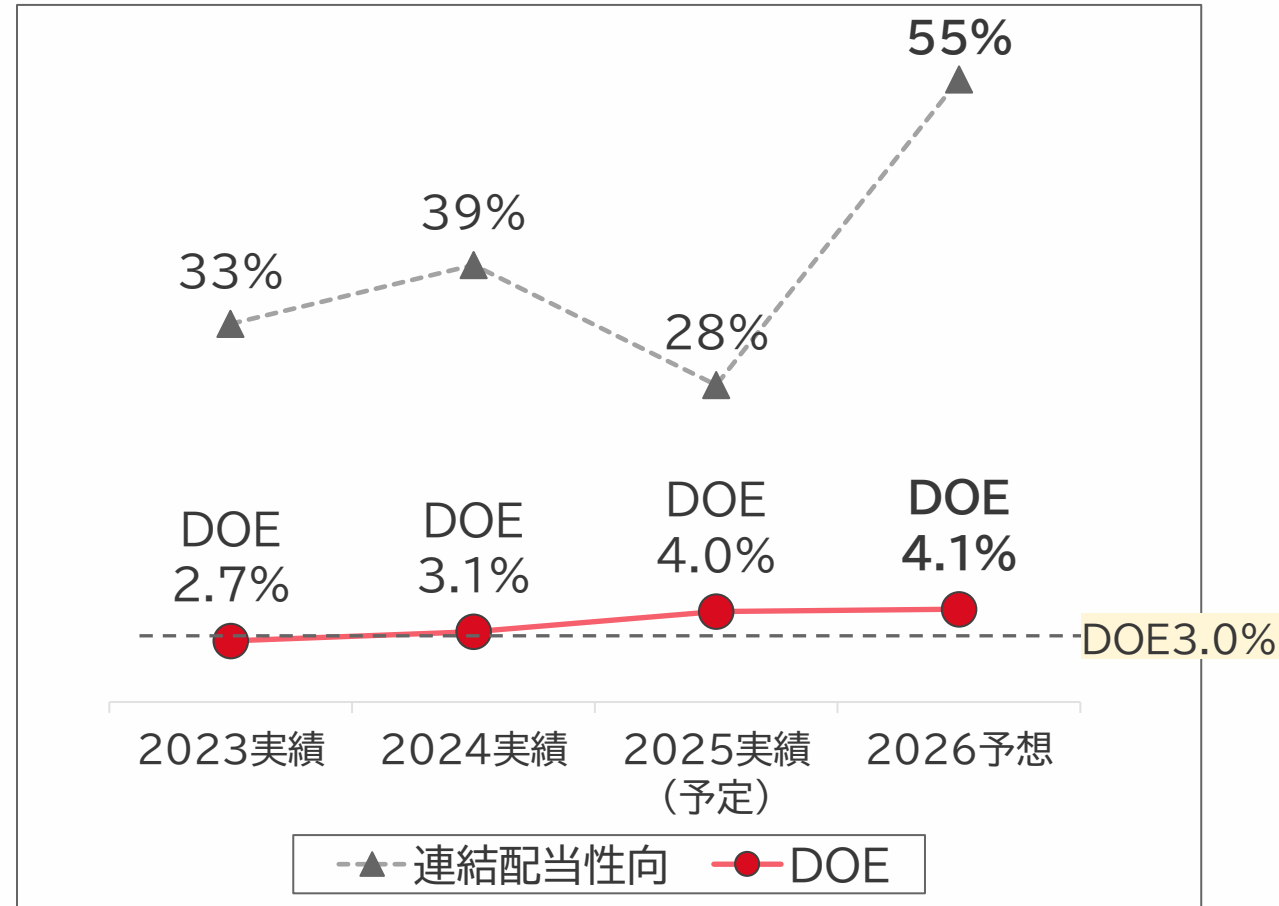
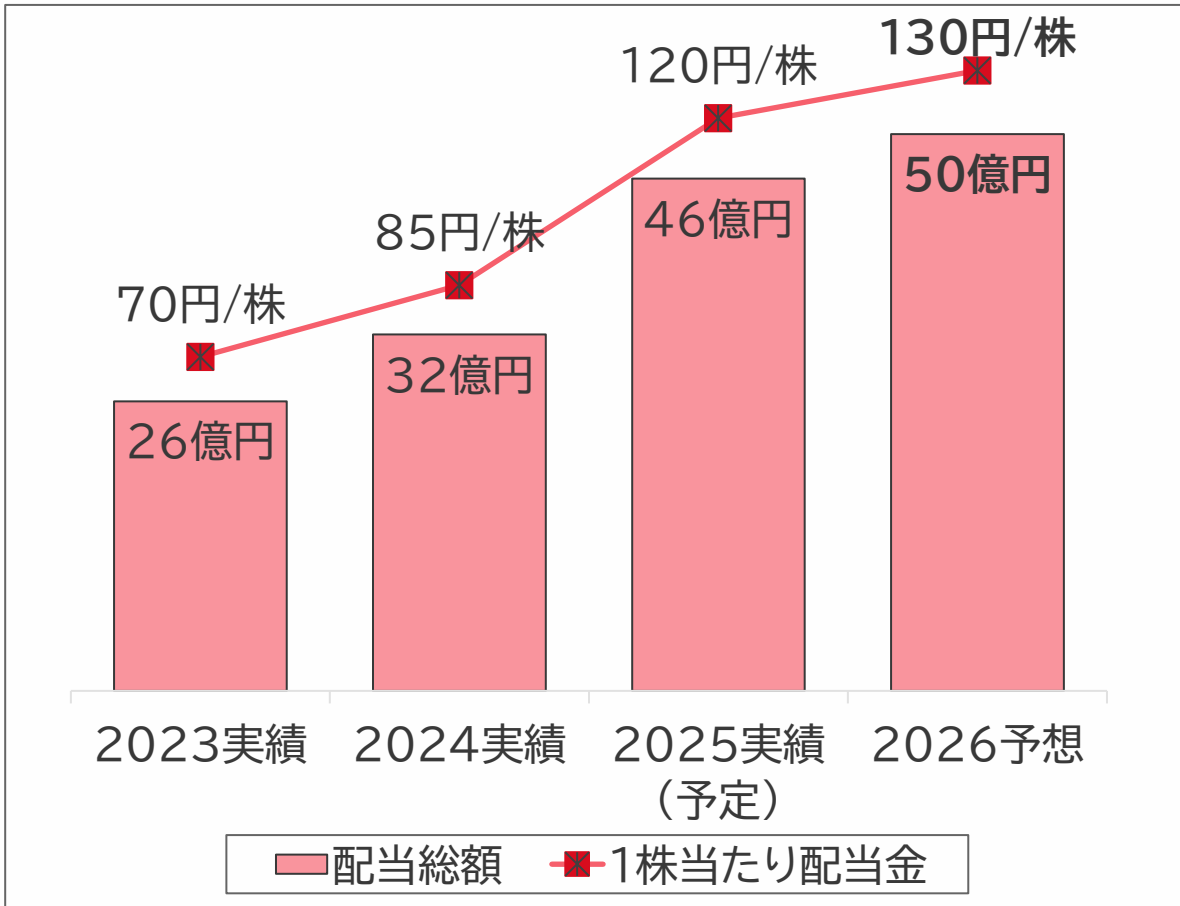
## ◆ 中東情勢による影響

現時点で販売局面、購買局面ともに大きな影響なし。

(※)火災による損益影響額は精査中であり、織込数値は現時点での推定値。

# 株主還元方針

- 2026年度 連結配当性向40%を目標
- DOE(連結株主資本配当率) 3%を下限



# PBR1倍以上に向けた取り組み

## 収益力向上に向けた取り組み「すべての事業を収益の柱へ」

- 農薬・・・成長戦略剤の拡販、ひょうご小野研究センターの本格稼働によるコスト低減
- 動物用医薬品・・・パノクエルの国内外での拡販
- 酸化チタン・・・構造改革の完遂
- ROIC経営の実施

## 株主還元強化

- DOE(連結株主資本配当率)  
2024年度実績:3.1%、2025年度実績(予定):4.0%、2026年度予想:4.1%
- 配当性向  
2024年度実績:39%、2025年度実績(予定):28%、2026年度予想:55%
- 2026年度 配当予想・・・1株当たり130円 ※10円の増配  
(中間配当50円/株、期末配当80円/株)

# 2025年度 決算概要

為替レート	(円/USD)	(円/EUR)
2024実績	152.4	162.8
2025実績	151.7	175.5

# 2025年度決算 概要

(単位:億円)	2024 実績	2025 実績	対前年 増減	2025 当初予想	2025 中計
売上高	1,451	1,548	+97	1,470	1,510
営業利益	104	190	+85	150	167
経常利益	113	217	+103	127	146
純利益	84	166	+82	92	103
配当 (円/株)	85	120	+35	100	100 ~105

※中間配当30円/株 + 期末配当90円/株(定時株主総会に付議予定)

- ◆ 対前年  
バイオサイエンス事業の好調、無機化学事業の黒字転換、および為替差益により好決算。
- ◆ 対当初予想  
無機化学事業のファインケミカル(酸化チタン)の収益悪化、ヘルスケア事業の開発費用増加などがあったが、バイオサイエンス事業の好調により、全体では予想を上回った。
- ◆ 対中計  
無機化学事業とヘルスケア事業は計画を下回るも、バイオサイエンス事業の大幅な増収増益と為替差益により、全体では計画を上回った。

# 2025年度決算 事業別売上高・営業利益

(単位:億円)		2024 実績	2025 実績	増減	2025 当初予想	2025 中計
有機化学 事業	売上高	677	826	+148	726	696
	営業利益	104	157	+52	118	117
無機化学 事業	売上高	732	682	△50	710	787
	営業利益	△5	28	+33	30	49
その他	売上高	41	40	△1	34	27
	営業利益	5	4	△0	2	1
合計	売上高	1,451	1,548	+97	1,470	1,510
	営業利益	104	190	+85	150	167

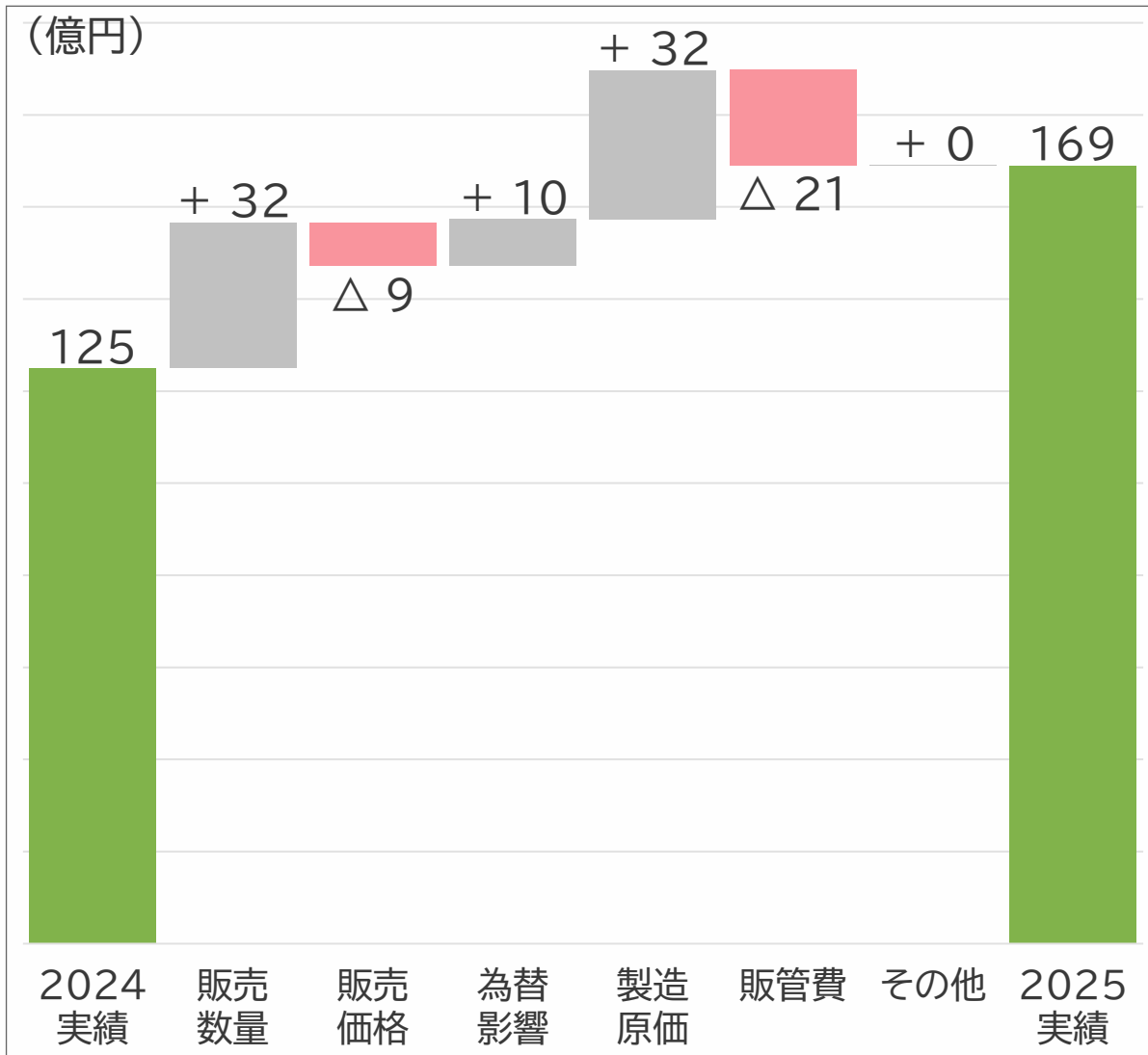
## ◆ 有機化学事業(対前年)

- バイオサイエンス事業は、欧州や北米の販売増加、および為替(円安)の要因などにより大幅に増益。
- ヘルスケア事業は、海外販売増により赤字幅は減少するも、コストが増加し、黒字転換は果たせず。

## ◆ 無機化学事業(対前年)

- 電子材料は、国内販売が伸長。
- 機能性色材は、化粧品用途が堅調。
- ファインケミカルは、前年度に実施した在庫適正化のための拡販がなくなったことにより収益改善。

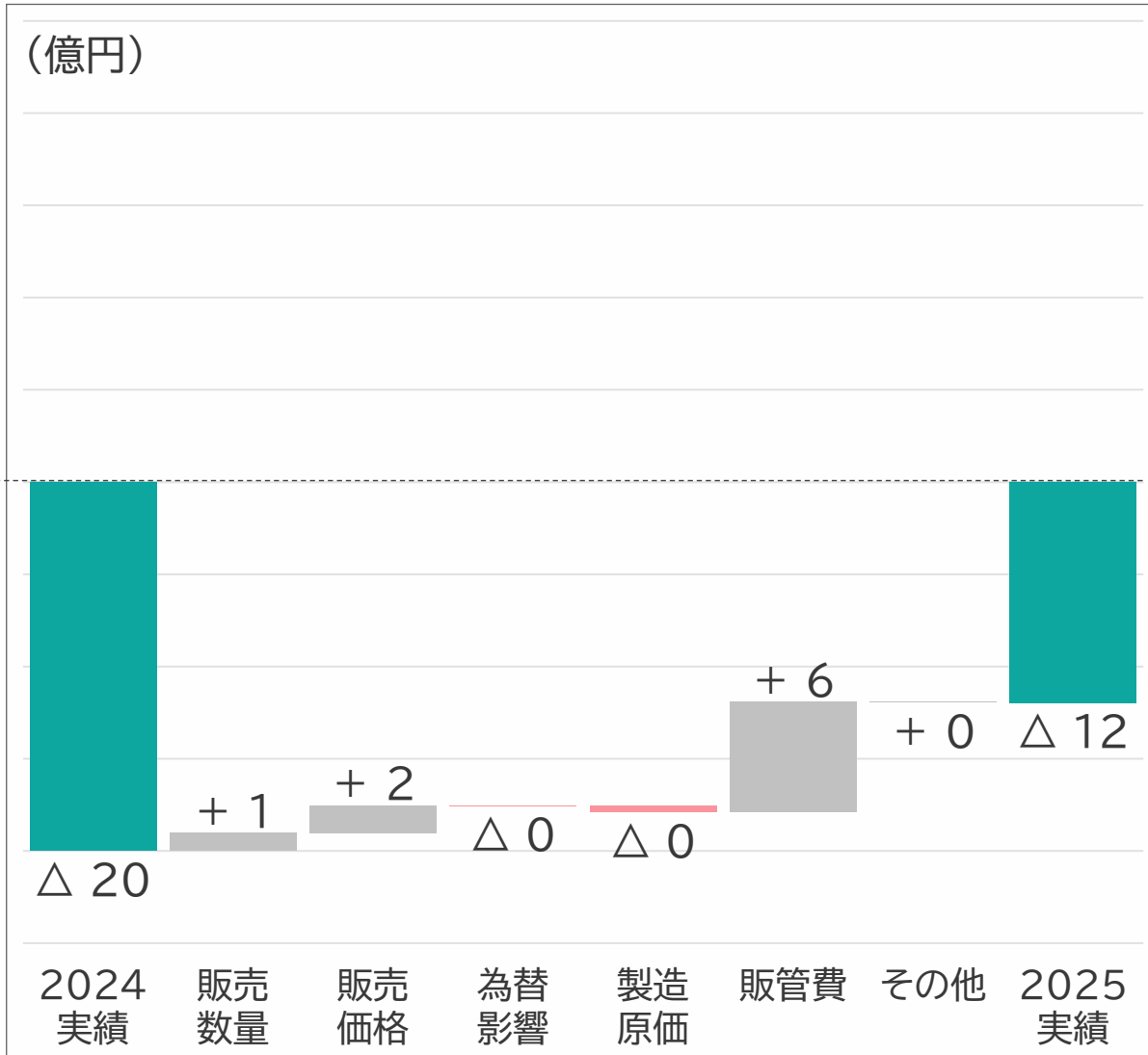
# 2025年度決算 営業利益増減要因(対前年) <有機化学事業>



## ◆ バイオサイエンス事業

天候要因による欧州の販売好調(シアゾファミド・フロニカミド)、北米における売上の伸長(トルピラレート)、および為替(円安)や製造コスト改善などにより、大幅に増益。

# 2025年度決算 営業利益増減要因(対前年) <有機化学事業>



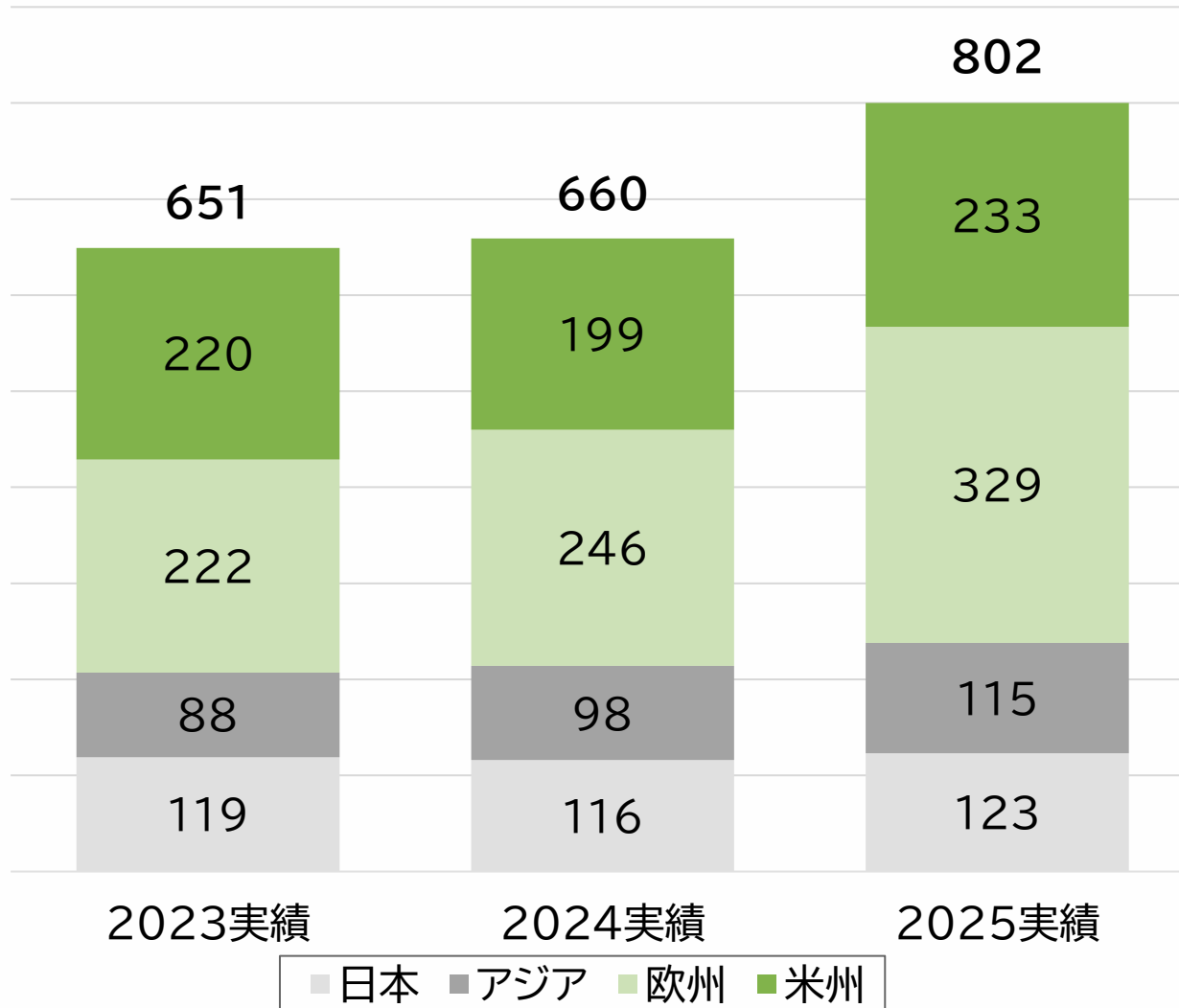
## ◆ヘルスケア事業

海外での販売が増加。

販管費においては、米国での動物用医薬品の完全承認に向けた研究開発費の増加はあったものの、総額としては前年よりも減少したことで、損益は改善。

# 2025年度決算 農薬 地域別販売実績 <有機化学事業>

(億円)

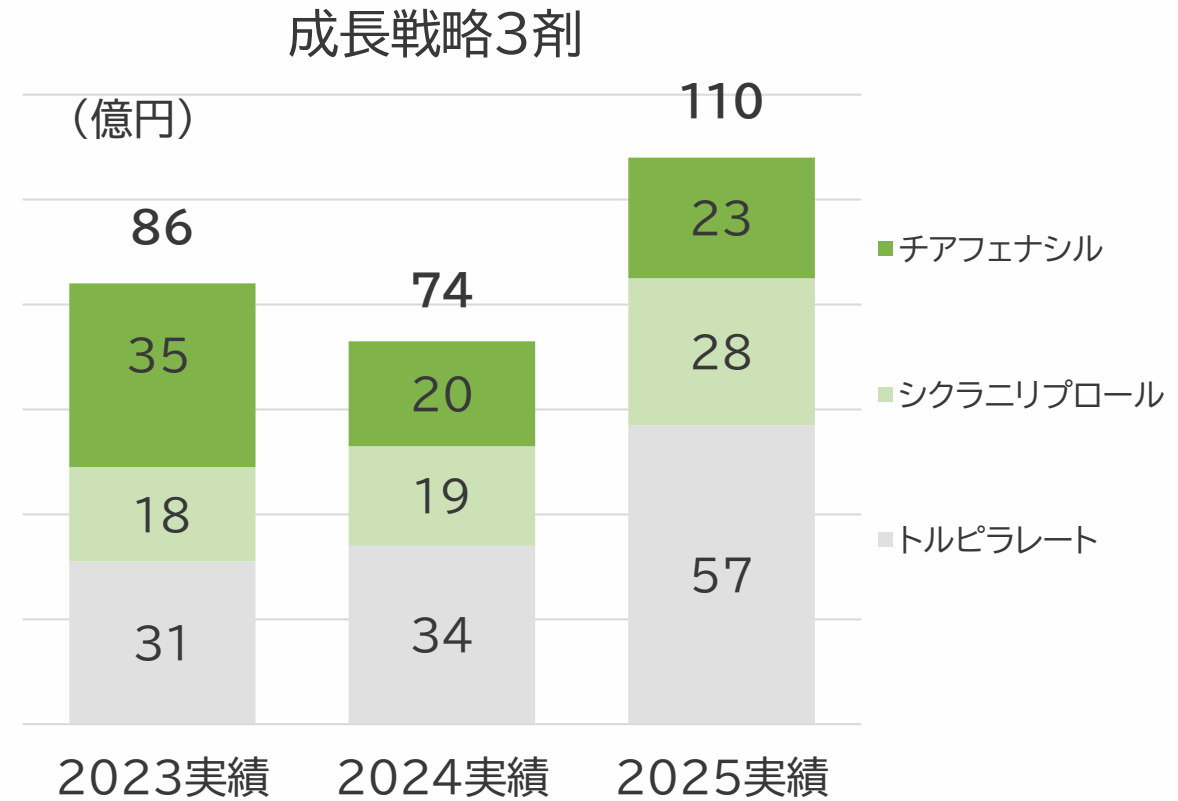
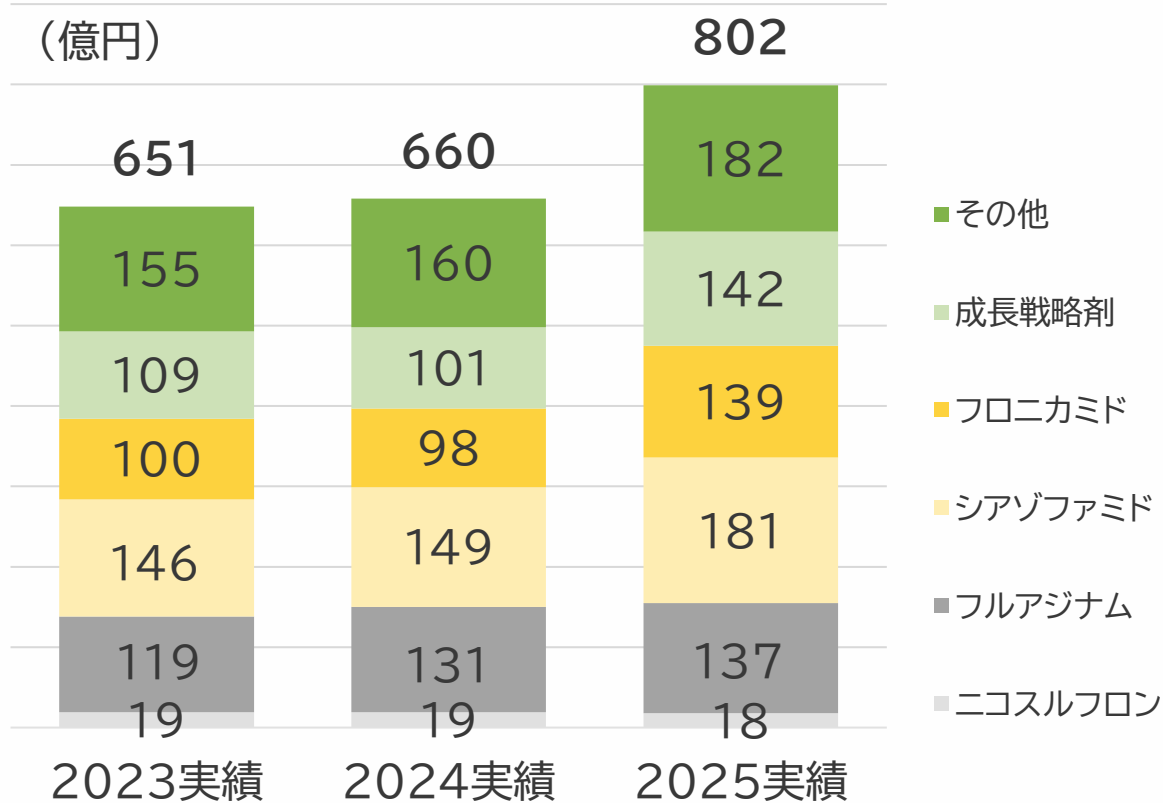


- 欧州は天候要因で殺菌剤販売が好調。加えて、害虫発生増により殺虫剤販売増。
- 米州では北米で殺虫剤および除草剤の販売が増加。
- アジアでは殺虫剤の販売が伸長。

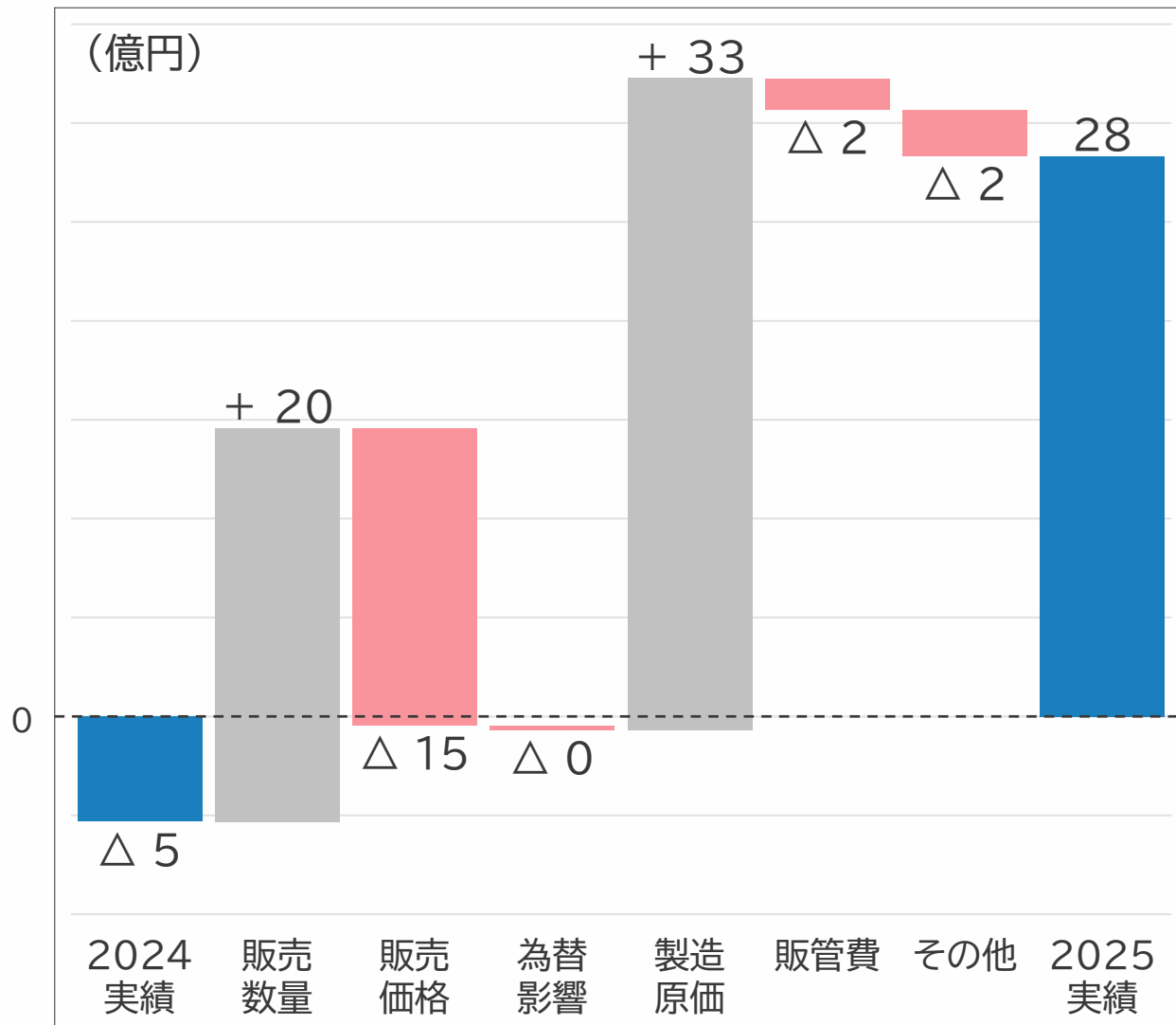
※アジアには大洋州を含む。

# 2025年度決算 農薬 剤別販売実績 <有機化学事業>

- 殺菌剤シアゾファミドは欧州で増収。
- 殺虫剤フロニカミドは欧州、北米で増収。
- 成長戦略3剤は、殺虫剤シクラニリプロールはアジアで増収。  
除草剤トルピラレートは、北米、アジアを中心に増収。

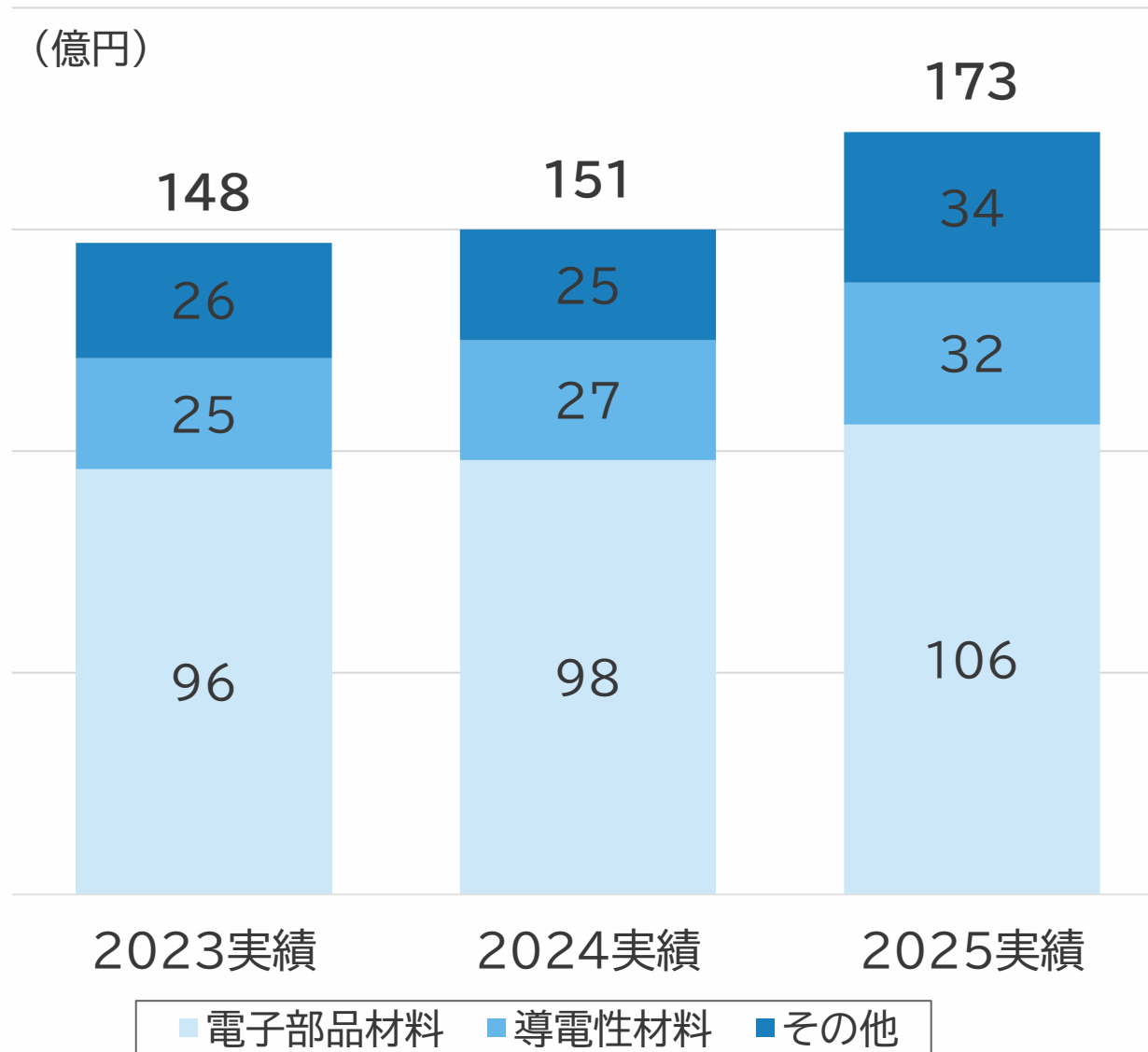


# 2025年度決算 営業利益増減要因<無機化学事業>



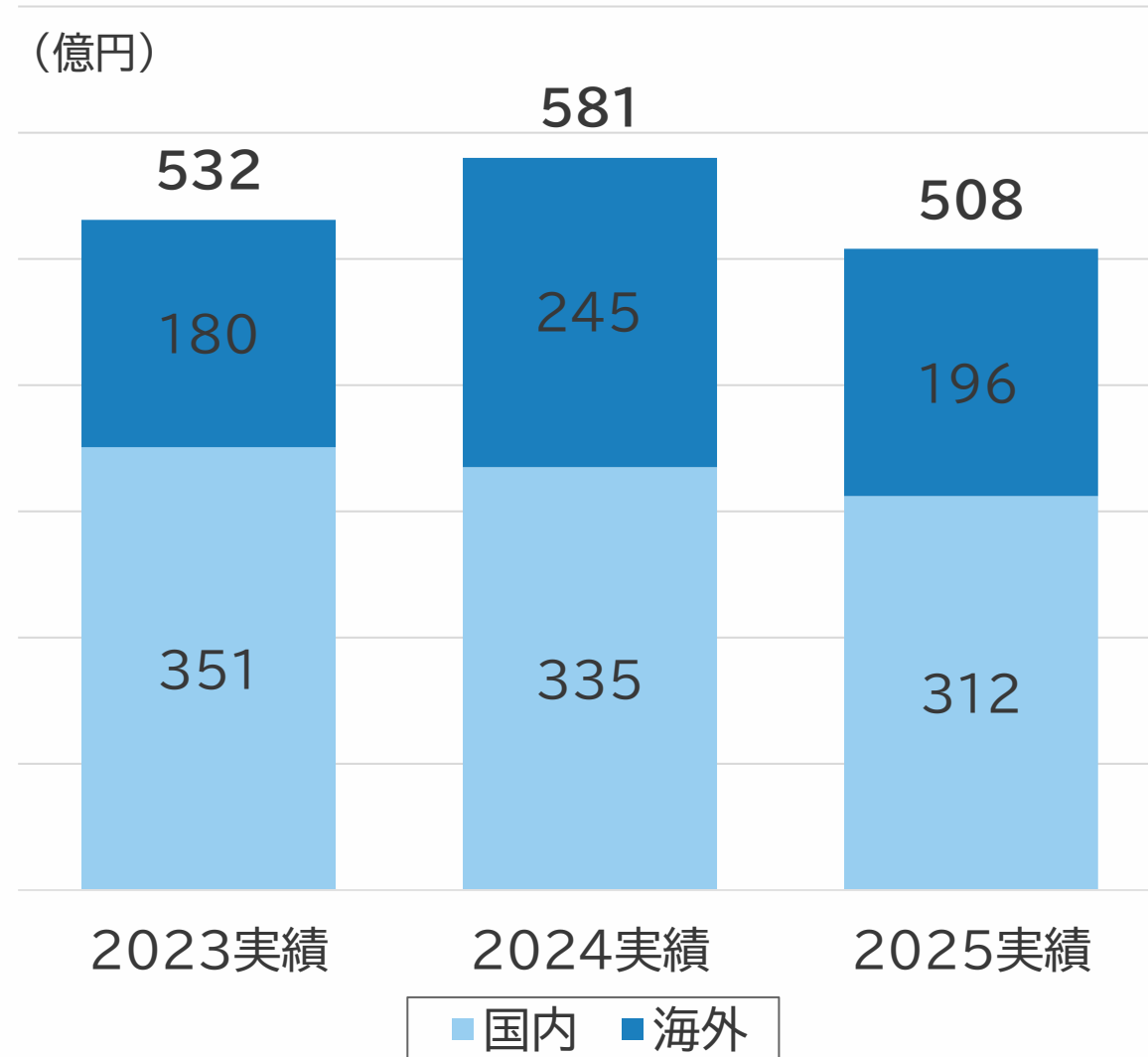
- 電子材料は、主に国内の販売数量が増加。
- ファインケミカル(酸化チタン)は、前年度に実施した在庫適正化のための拡販がなくなったことにより収益改善。
- 製造原価局面では原燃料調達コスト削減に加え、棚卸資産評価の影響などにより増益。

# 2025年度決算 電子材料・機能性色材 材料別販売実績 <無機化学事業>



- 電子材料は国内販売が伸長し、前年度比で増収。
- 機能性色材は導電性材料が堅調。

# 2025年度決算 ファインケミカル(酸化チタン) 地域別販売実績 <無機化学事業>



- 国内販売は建築用途向けを中心に需要が低迷。
- 海外販売は、前期実施した在庫適正化のための拡販がなくなったことにより、減収。

# 2025年度決算 営業外損益・特別損益

## <営業外損益>

- 今期は為替差益を計上。

(単位:億円)	2024 実績	2025 実績	増減
金融収支	△0	△4	△3
為替差損益	0	21	+21
持分法利益	15	13	△1
その他	△5	△4	+1
合計	9	26	+17

## <特別損益>

- 当社連結子会社の工場閉鎖損失を計上。

(単位:億円)	2024 実績	2025 実績	増減
固定資産処分損	△5	△7	△2
減損損失	△1	△3	△2
子会社工場 閉鎖損失	—	△3	△3
その他	0	0	△0
合計	△5	△15	△9

# 2025年度決算 貸借対照表(2025年度末)

- 有形固定資産の増加(+69億円)は、ひょうご小野研究センターや、子会社 MFマテリアルの延岡工場Ⅱ期工事などによるもの。

(億円)

科目	2025年 3月末	2026年 3月末	増減
<b>流動資産</b>	<b>1,548</b>	<b>1,618</b>	<b>+69</b>
現預金	249	294	+44
売掛債権	430	487	+56
棚卸資産	828	801	△26
その他	39	34	△4
<b>固定資産</b>	<b>702</b>	<b>785</b>	<b>+83</b>
有形固定資産	465	535	+69
無形固定資産	18	23	+4
投資その他資産	218	227	+9
<b>資産合計</b>	<b>2,250</b>	<b>2,404</b>	<b>+153</b>

科目	2025年 3月末	2026年 3月末	増減
<b>負債</b>	<b>1,106</b>	<b>1,112</b>	<b>+5</b>
買掛債務	161	124	△37
有利子負債	722	739	+17
引当金	10	17	+7
退職給付に係る負債	100	97	△3
その他	112	135	+23
<b>純資産</b>	<b>1,144</b>	<b>1,291</b>	<b>+147</b>
株主資本	1,076	1,201	+124
その他	67	90	+22
<b>負債・純資産合計</b>	<b>2,250</b>	<b>2,404</b>	<b>+153</b>

# 2025年度決算 キャッシュフロー計算書(2025年度末)

(単位:億円)	2024 実績	2025 実績	増減
<b>営業キャッシュフロー</b>	183	172	△10
税金等調整前当期純利益	108	202	+94
減価償却費及びその他償却費	57	48	△8
減損損失	1	3	+2
運転資金等	38	△62	△100
法人税等支払額	△21	△20	+1
<b>投資キャッシュフロー</b>	△114	△100	+14
固定資産の取得・売却	△98	△117	△19
投資有価証券の取得	△4	△0	+4
投融資資金等	△11	17	+29
<b>財務キャッシュフロー</b>	△23	△38	△14
借入金・社債増減等	3	6	+2
自己株式純増減額	△0	△0	△0
配当金支払額	△26	△44	△17
<b>現金及び現金同等物に係る換算額</b>	3	5	+1
<b>現金及び現金同等物の増減額</b>	49	39	△10
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	249	294	+44

- 当期利益の増加などで営業キャッシュフローは172億円となり、フリー・キャッシュフローは72億円。
- 自己資本比率 53.7%
- 自己資本利益率(ROE) 13.7%

# 2026年度 業績予想

為替レート	(円/USD)	(円/EUR)
2025実績	151.7	175.5
2026予想	155.0	180.0

# 2026年度業績予想

(単位:億円)	2025 実績	2026 中計	2026 予想	対前年 増減	対中計 増減
売上高	1,548	1,607	1,500	△48	△107
売上総利益	467	453	479	+11	+27
営業利益	190	198	142	△48	△56
経常利益	217	193	133	△84	△60
純利益	166	136	91	△75	△45

- 2026年度予想は、前年度と比べて減収減益の見通し。
- 売上総利益は前年度並みを見込むも、一般管理費の増加(主にバイオサイエンス事業)により、営業利益は減益の見通し。
- 為替差益が為替差損に転じたことにより、営業外損益が悪化し、経常利益は前年度を下回る見通し。

※売上総利益は販直費控除後数値

# 2026年度業績予想 事業別売上高・売上総利益・営業利益

(単位:億円)		2025 実績	2026 予想	差異
有機化学事業	売上高	826	807	△19
	売上総利益	376	376	+0
	営業利益	157	105	△52
無機化学事業	売上高	682	652	△30
	売上総利益	80	95	+15
	営業利益	28	36	+8
その他	売上高	40	41	+0
	売上総利益	11	8	△3
	営業利益	4	0	△4
合計	売上高	1,548	1,500	△48
	売上総利益	467	479	+11
	営業利益	190	142	△48

## ◆ 有機化学事業

- 売上総利益は前年度並みを見込むも、バイオサイエンス事業の一般管理費の増加により営業利益は減益見込み。

## ◆ 無機化学事業

- ファインケミカルが需要低迷で販売数量減少を見込むも、販売価格改善により収益改善を見込む。
- 電子材料の販売伸長もあり、無機化学事業全体では増益となる見込み。

※売上総利益は販直費控除後数値

# 2026年度業績予想 事業別売上高・売上総利益・営業利益 <有機化学事業>

(単位:億円)		2025 実績	2026 予想	差異
バイオサイエンス	売上高	802	767	△35
	売上総利益	366	357	△9
	営業利益	169	115	△54
ヘルスケア	売上高	23	40	+15
	売上総利益	9	19	+9
	営業利益	△12	△9	+2
有機化学事業 合計	売上高	826	807	△19
	売上総利益	376	376	+0
	営業利益	157	105	△52

※売上総利益は販直費控除後数値

## ◆ バイオサイエンス事業

- 前年度の天候要因による欧州特需を見込んでいないために減収の見通しだが、製造コストの改善が寄与し、売上総利益は前年度から微減となる見通し。
- 一方、新規剤の開発費用などの一過性の販管費増加により、営業利益は前年度を下回る見通し。
- 販管費増加の主な要因（約35億円）
  - ①新規剤 他社との共同開発費用
  - ②ひょうご小野研究センター関連費用
  - ③2025年度農薬登録費用の期ズレ など

## ◆ ヘルスケア事業

- 動物用医薬品等の販売増により、増収の見通し。
- 米国での動物用医薬品の完全承認に向けた研究開発費等の費用増により、営業赤字の見通し。

# 2026年度業績予想 事業別売上高・売上総利益・営業利益 <無機化学事業>

(単位:億円)		2025 実績	2026 予想	差異
機能性色材	売上高	67	62	△5
	売上総利益	19	19	△0
	営業利益	13	12	△2
電子材料	売上高	106	123	+16
	売上総利益	24	30	+5
	営業利益	16	21	+4
ファインケミカル	売上高	508	467	△41
	売上総利益	36	47	+10
	営業利益	△1	4	+5
無機化学事業 合計	売上高	682	652	△30
	売上総利益	80	95	+15
	営業利益	28	36	+8

## ◆ 機能性色材

- おおむね前年度並み。

## ◆ 電子材料

- 電子部品材料(四塩化チタンなど)の販売伸長により、増収増益となる見込み。

## ◆ ファインケミカル

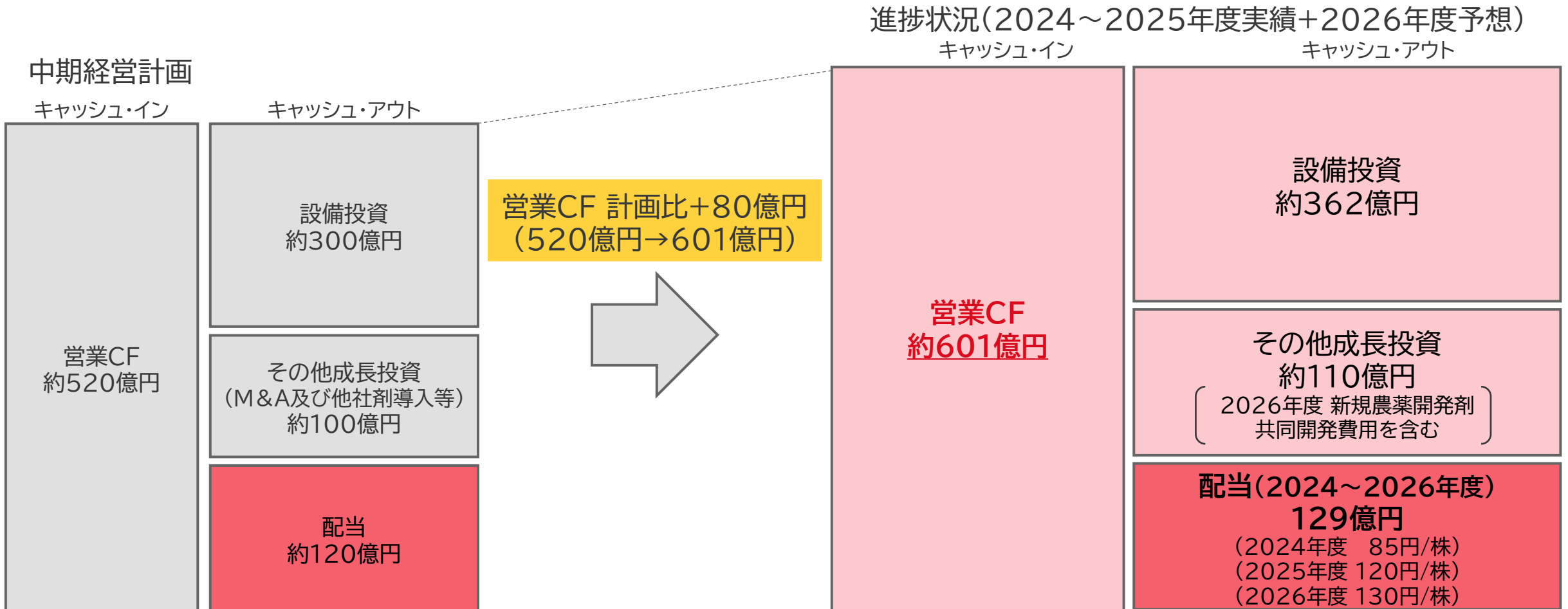
- 汎用酸化チタンの需要低迷のほか、子会社 富士チタン工業の工場火災による影響(※)などのマイナス要因により、減収の見込み。
- 一方で、販売価格の改定により、利益は改善する見通し。

(※)火災による損益影響額は精査中であり、織込数値は現時点での推定値。

※売上総利益は販直費控除後数値

# 2026年度業績予想 キャピタルアロケーション Vision 2030 Stage II (2024~2026年度)進捗状況

- 営業キャッシュフローは、業績が好調であることを背景に、中期経営計画策定時から増加の見通し。
- 設備投資は、ひょうご小野研究センター建設、MFマテリアル延岡Ⅱ期工事などを実施。
- 成長投資は、導入剤の共同開発・販売権の取得に注力。
- 配当は、中計最終年度の計画143円に届かない130円の見込みだが、3年累計では計画を達成。



## 2026年度業績予想 経営指標

	2024 実績	2025 実績	2026 中計	2026 予想
1株当たり当期純利益(円)	219.9	434.7	356.2	237.8
自己資本利益率(ROE)	7.6%	13.7%	11.2%	7.0%
年間配当金(円/株)	85	120	143	130
配当性向	38.6%	27.6%	40.1%	54.7%
連結株主資本配当率(DOE)	3.1%	4.0%	4.6%	4.1%

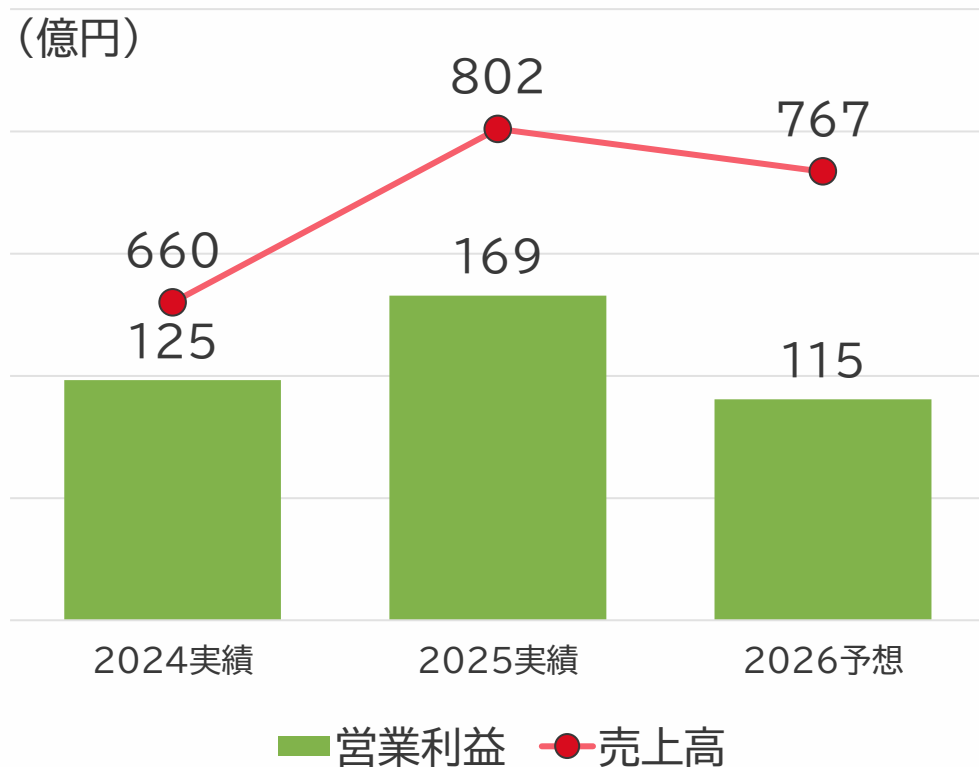
総資産営業利益率(ROA)	4.7%	8.2%	8.2%	5.9%
売上高営業利益率	7.2%	12.3%	12.3%	9.5%
自己資本比率	50.8%	53.7%	52.7%	55.4%

# 事業別 業績概要

## <有機化学事業> 2026年度業績計画

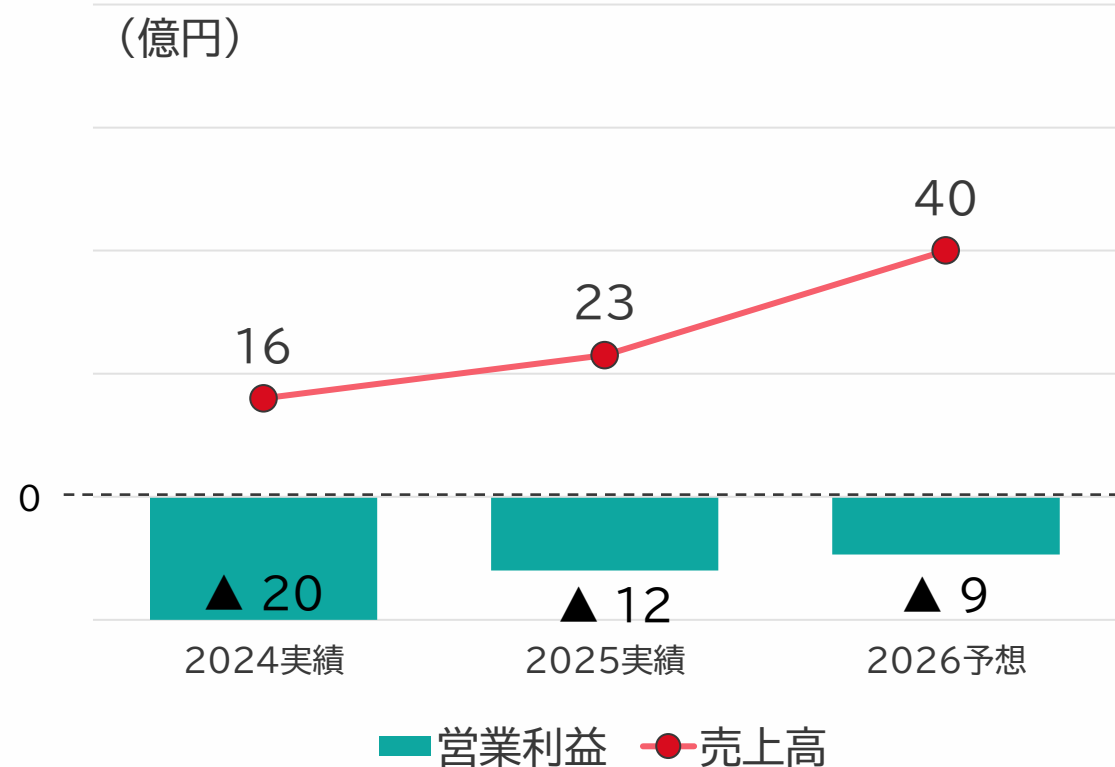
### ◆ バイオサイエンス事業

前年度の欧州特需を見込んでいないために減収の見通しだが、製造コスト改善により、売上総利益は前年並み。一方で、新規剤開発費などの一般管理費増により、営業利益は減益となる見通し。

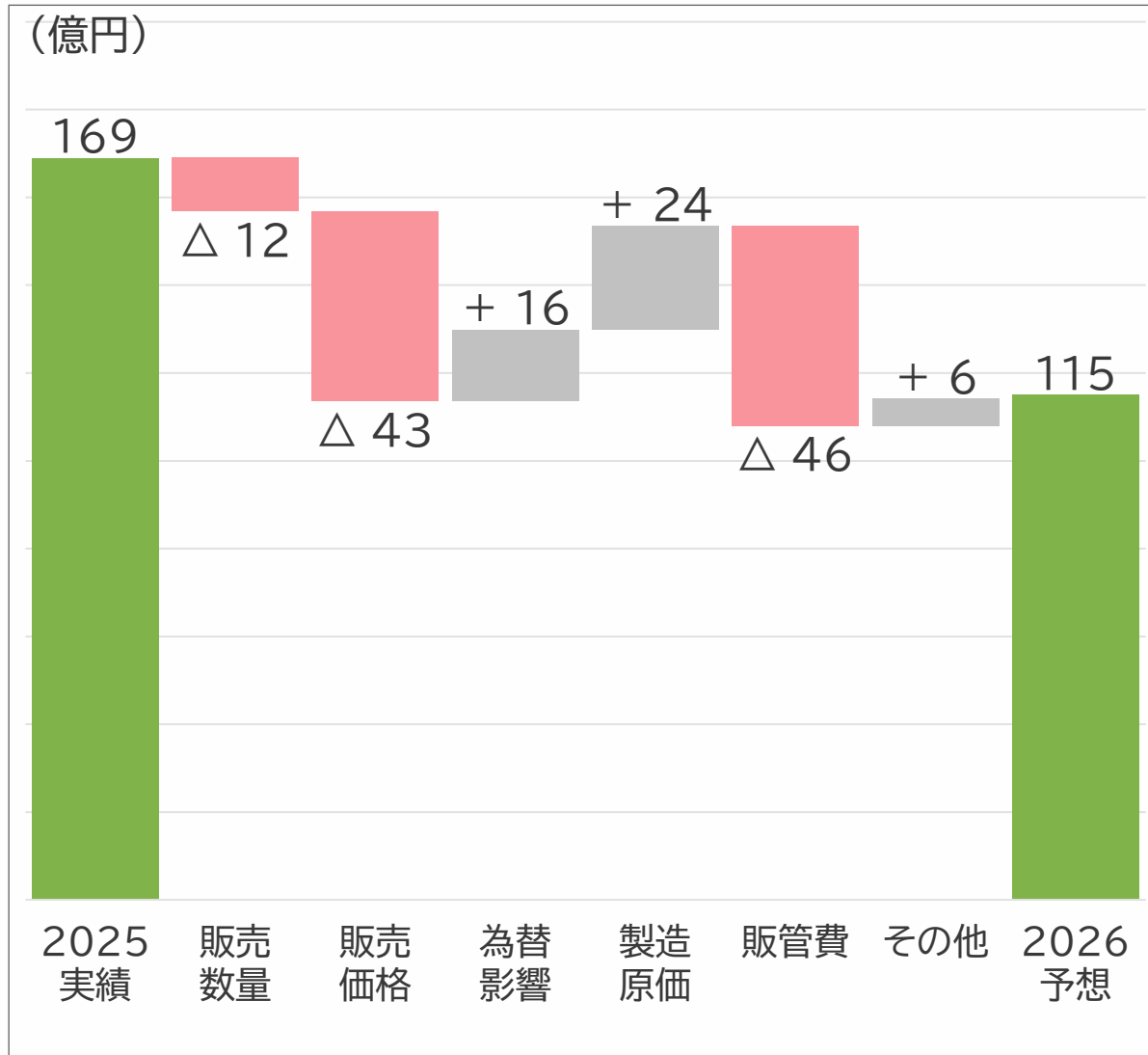


### ◆ ヘルスケア事業

動物用医薬品などの販売増により売上高は増収の見込み。米国での完全承認に向けた研究開発費支出が継続することとなり、営業赤字の見通し。



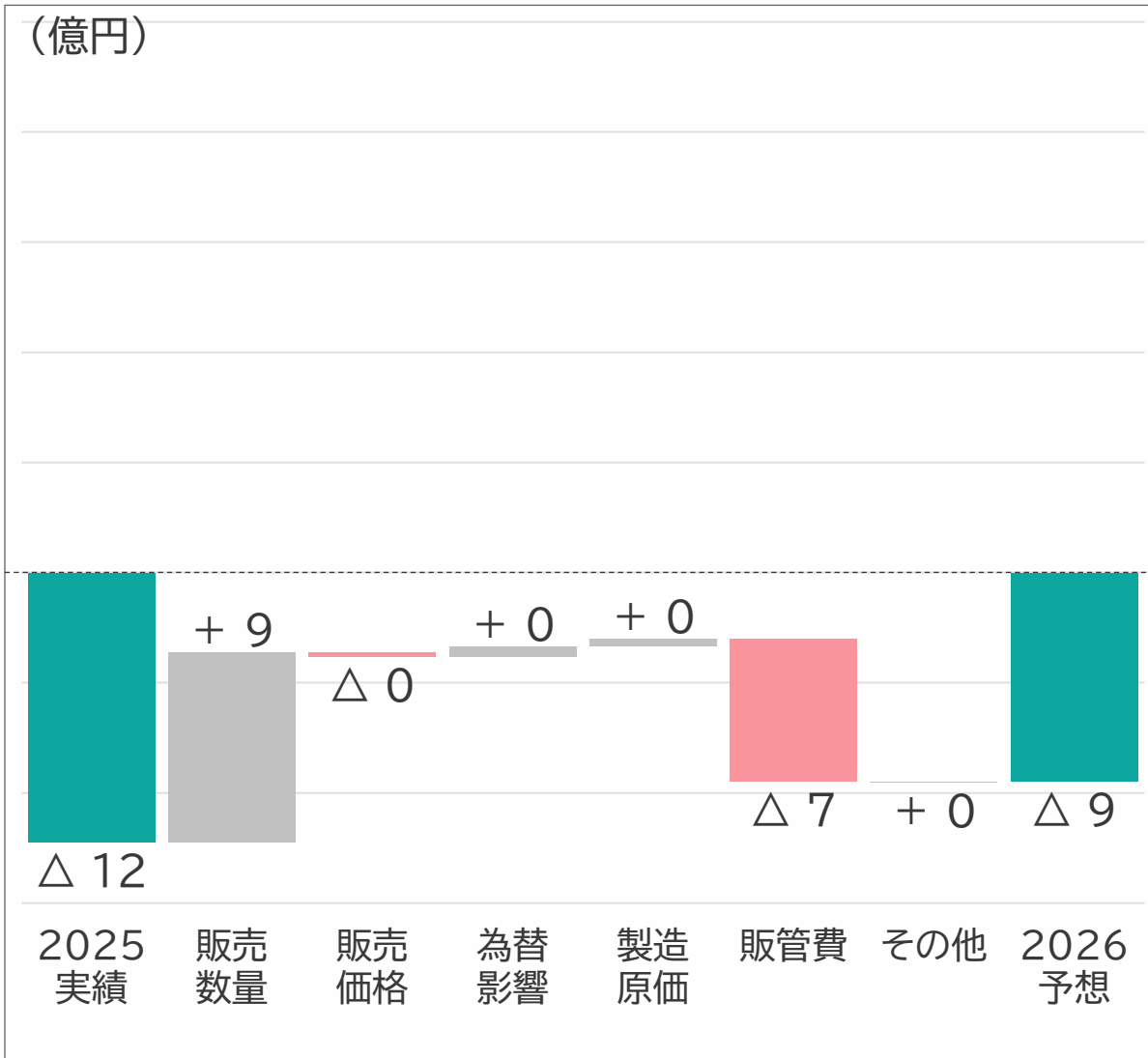
## <有機化学事業> 営業利益増減要因(2026年度業績予想 対前年)



### ◆バイオサイエンス事業

- 前年度の欧州特需の反動による販売数量面への影響に加え、ジェネリック品との価格競争激化による販売価格面への影響が、利益を押し下げ。
- 製造コスト削減を見込むものの、新規剤の共同開発費用等の次年度以降の収益寄与を見据えた販管費の増加により、減益となる見通し。

## <有機化学事業> 営業利益増減要因(2026年度業績予想 対前年)

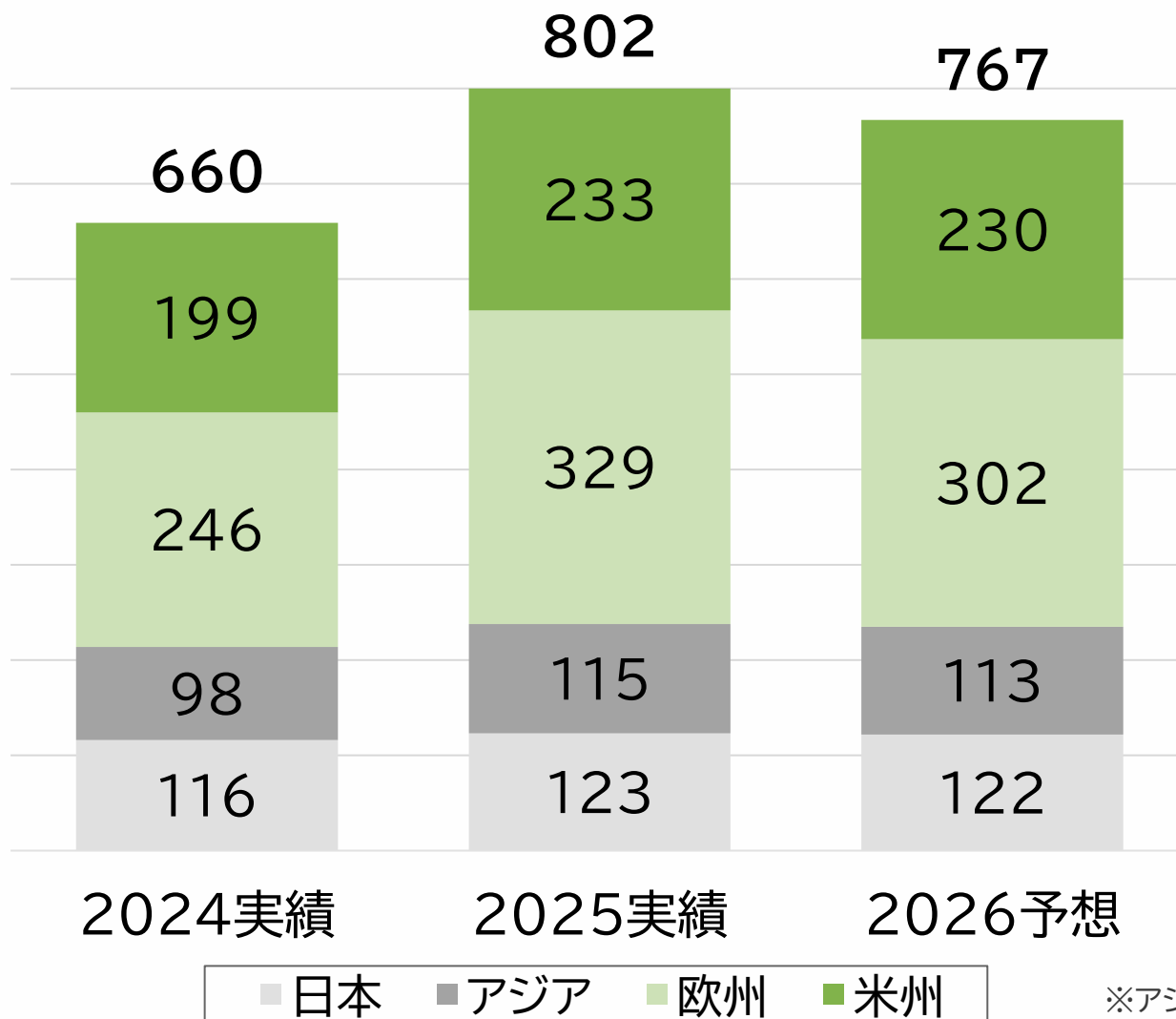


### ◆ヘルスケア事業

- 国内外で、動物用医薬品等の販売拡大を見込んでおり、営業赤字は縮小する見通し。
- 一方で、米国での動物用医薬品の完全承認に向けた研究開発費等の販管費増加を見込んでおり、営業赤字の見通し。

## <有機化学事業> 農薬 地域別販売(2026年度業績予想)

(億円)



### ◆バイオサイエンス事業

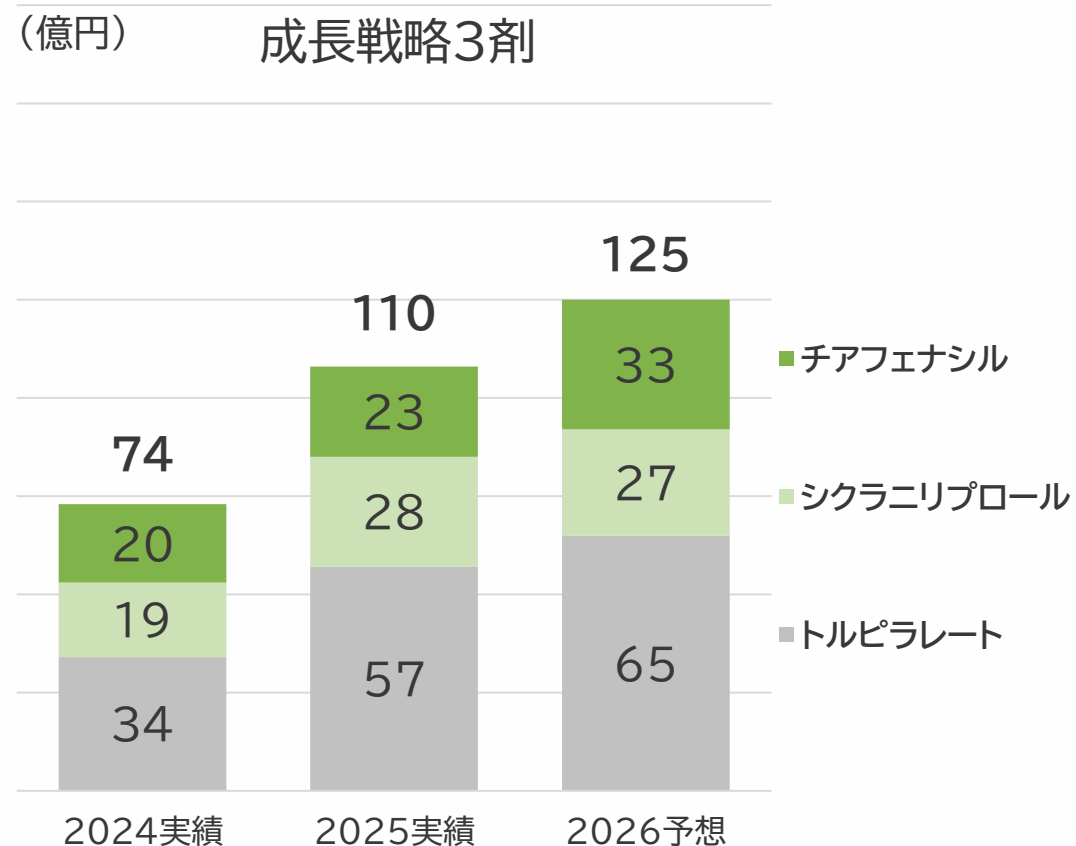
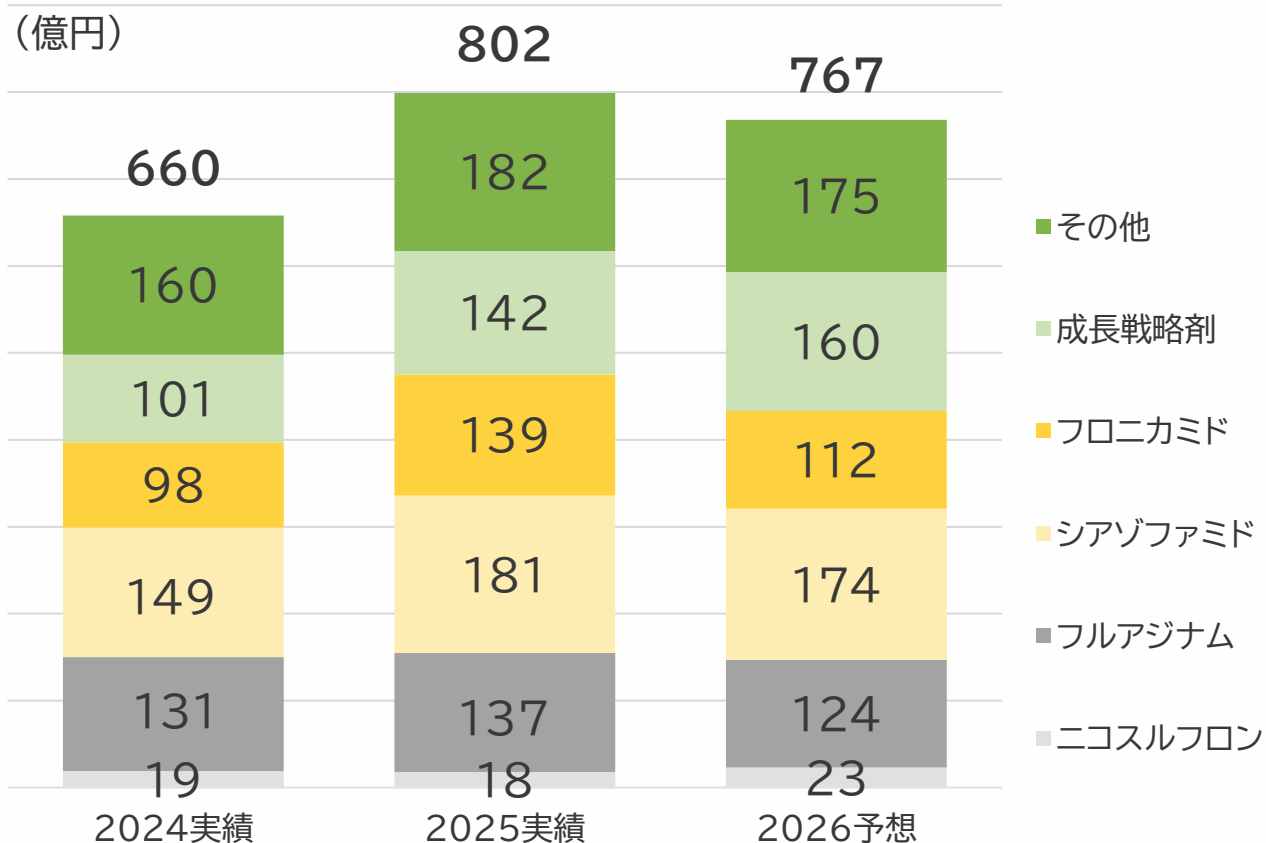
- 欧州は昨年、天候要因等で殺菌剤シアゾファミド、殺虫剤フロニカミドの販売が好調であったことの反動で減収の見通し。
- 米州は、殺菌剤フルアジナムのブラジルでのジェネリックとの競争による販売価格面の影響に加え、北米で昨年販売好調であった殺虫剤の販売数量が減少。
- アジアおよび日本は、前年並み。

※アジアには大洋州を含む。

# <有機化学事業> 農薬 剤別販売実績（2026年度業績予想）

## ◆バイオサイエンス事業

- 殺菌剤フルアジナムはジェネリック品との競争などにより減収。
- 殺菌剤シアゾファミド、殺虫剤フロニカミドは、欧州特需の反動などにより減収。
- 成長戦略剤は、除草剤トルピラレートが米州、アジアで増加の見通し。



# <有機化学事業> ひょうご小野研究センターのご紹介（バイオサイエンス事業）

## ひょうご小野研究センター

(Technology Research Center, Hyogo-Ono, 通称: TREC)

- 農薬有効成分の「より安全・より安価な合成方法」を追求し、「効率的で高品質な製品づくり」を実現する目的で、60年ぶりの国内新拠点として兵庫県小野市に開設。
- 地域の皆様との共生を大切にしながら、環境に配慮した研究開発を推進し、地域社会の発展にも貢献します。

## TRECの目標

- |                     |                               |
|---------------------|-------------------------------|
| ① 開発スピード向上          | 基礎研究～プロセス開発～スケールアップまでシームレスな開発 |
| ② 実践的化学エンジニアの育成     | ラボからパイロット設備まで経験を積み、現場対応力を養う   |
| ③ 交流から生まれる新たな発想     | 情報共有の活性化で個の知見を融合し、革新を生む       |
| ④ 新技術の追求と競争力ある製品の創出 | 世界市場で選ばれる技術・製品を生み出す           |
| ⑤ パートナー企業との連携強化     | 相互の強みを活かし、価値創造を加速する           |



# <有機化学事業> パノクエル® のご紹介 (ヘルスケア事業)

## パノクエル®

～日米で承認取得※、グローバル展開加速中～

※米国は条件付き承認(PANOQUELL-CA1)



## 製品の特長

### 01 新しい抗炎症アプローチ

犬の膀胱炎急性期管理を支える新たな選択肢。

### 02 成分の独自性

有効成分フザプラジブナトリウムは、犬膀胱炎急性期を適応として承認された唯一の有効成分。

### 03 標準治療と併用可能

輸液・鎮痛・制吐など既存プロトコルに追加して使用可能。

- ✓ 犬の膀胱炎急性期は対症療法が中心で、炎症初期の制御に特化した選択肢が限られていました。
- ✓ パノクエルは、犬膀胱炎急性期における臨床症状の改善を目的とした新規作用機序の抗炎症剤。
- ✓ 本作用機序は他の炎症性疾患への適応拡大の可能性を有し、長期的な成長ポテンシャルを秘めています。

## グローバル展開状況



2022年  
米国 FDA条件付き承認取得  
2023年  
販売開始(PANOQUELL-CA1)



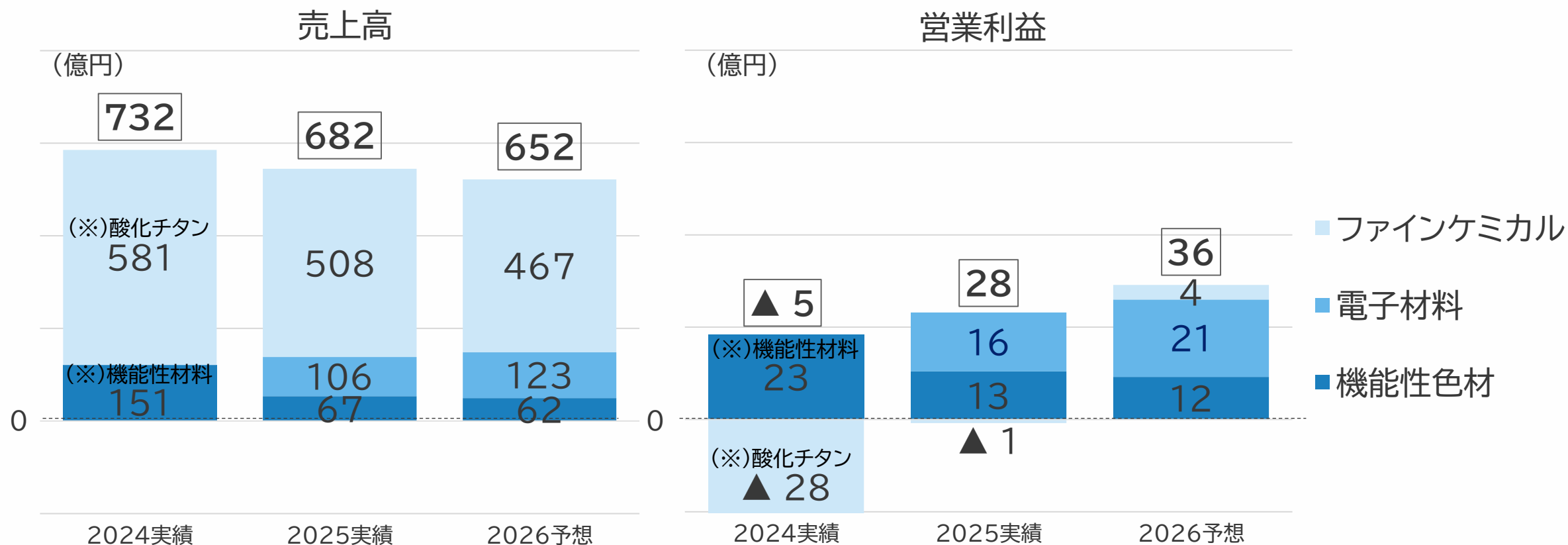
2024年  
日本承認取得・販売開始



欧州・アジアへ展開  
さらなるグローバル展開を推進

# <無機化学事業> 2026年度業績計画

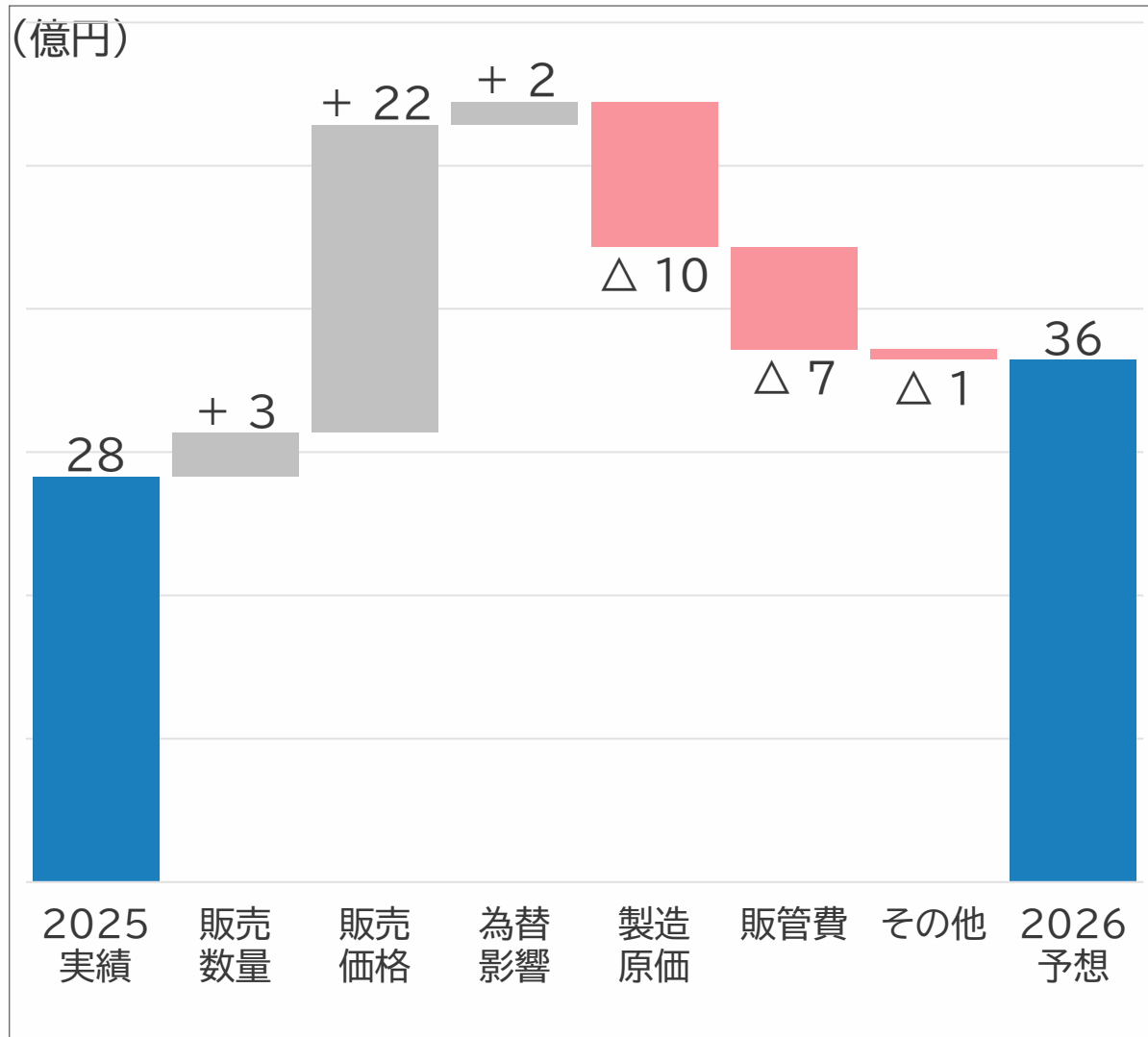
- ファインケミカルは、汎用酸化チタンの需要低迷に加え、米国での販売終了などもあり、減収の見通し。一方、販売価格面では、国内外での値上げ実施により、営業黒字化の見通し。
- 電子材料は、四塩化チタンなどの販売が伸長。



(※)2025年度より新サブセグメント基準で集約。  
2024実績は次の基準で読替。

機能性材料	電子材料
	機能性色材
酸化チタン	ファインケミカル

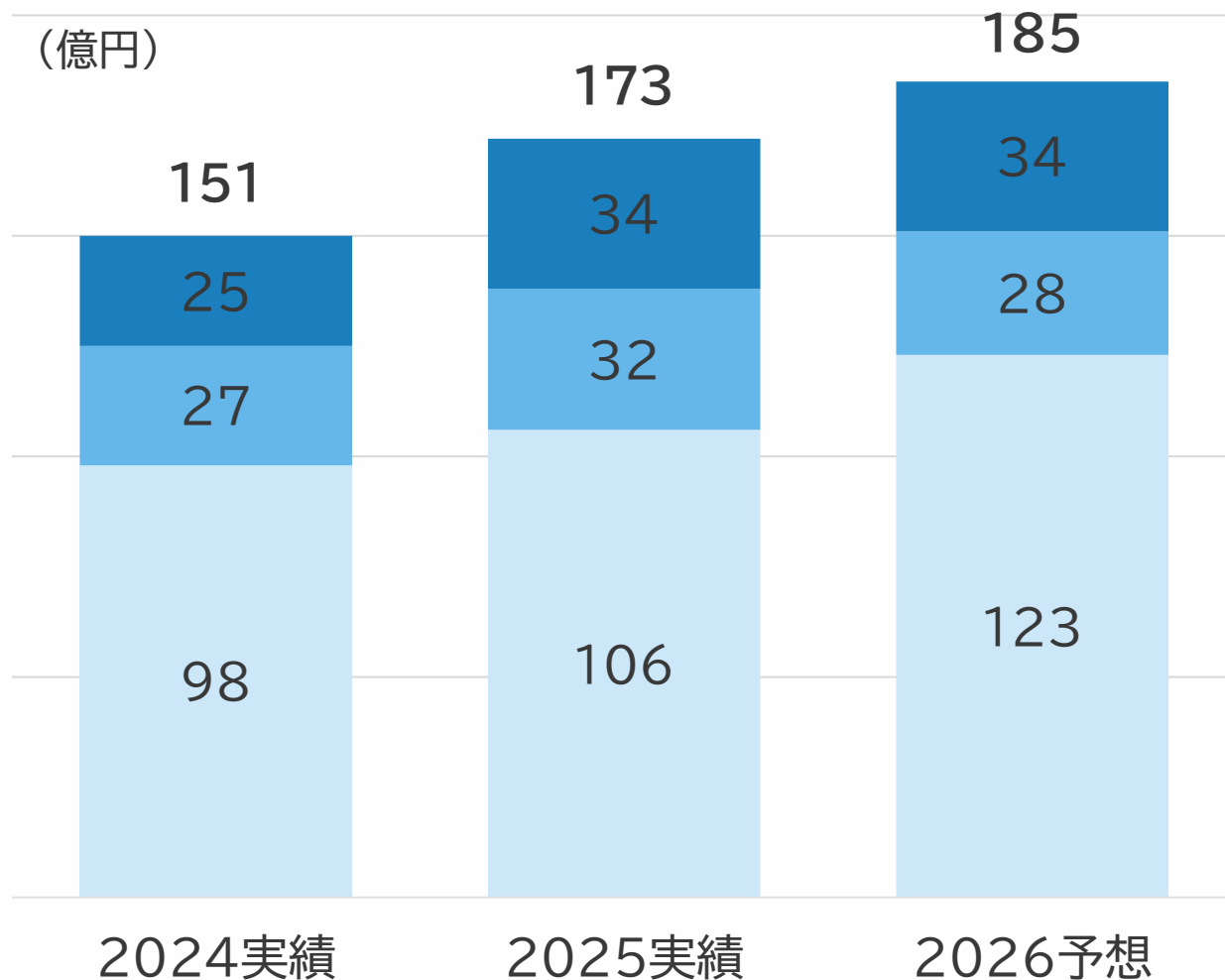
## <無機化学事業> 営業利益増減要因(2026年度業績予想 対前年)



### ◆無機化学事業

- 電子材料は好調に推移。
- ファインケミカル(酸化チタン)は国内外での価格改定などにより、収益を確保。

## <無機化学事業> 電子材料・機能性色材 材料別販売計画



■ 電子部品材料 ■ 導電性材料 ■ その他

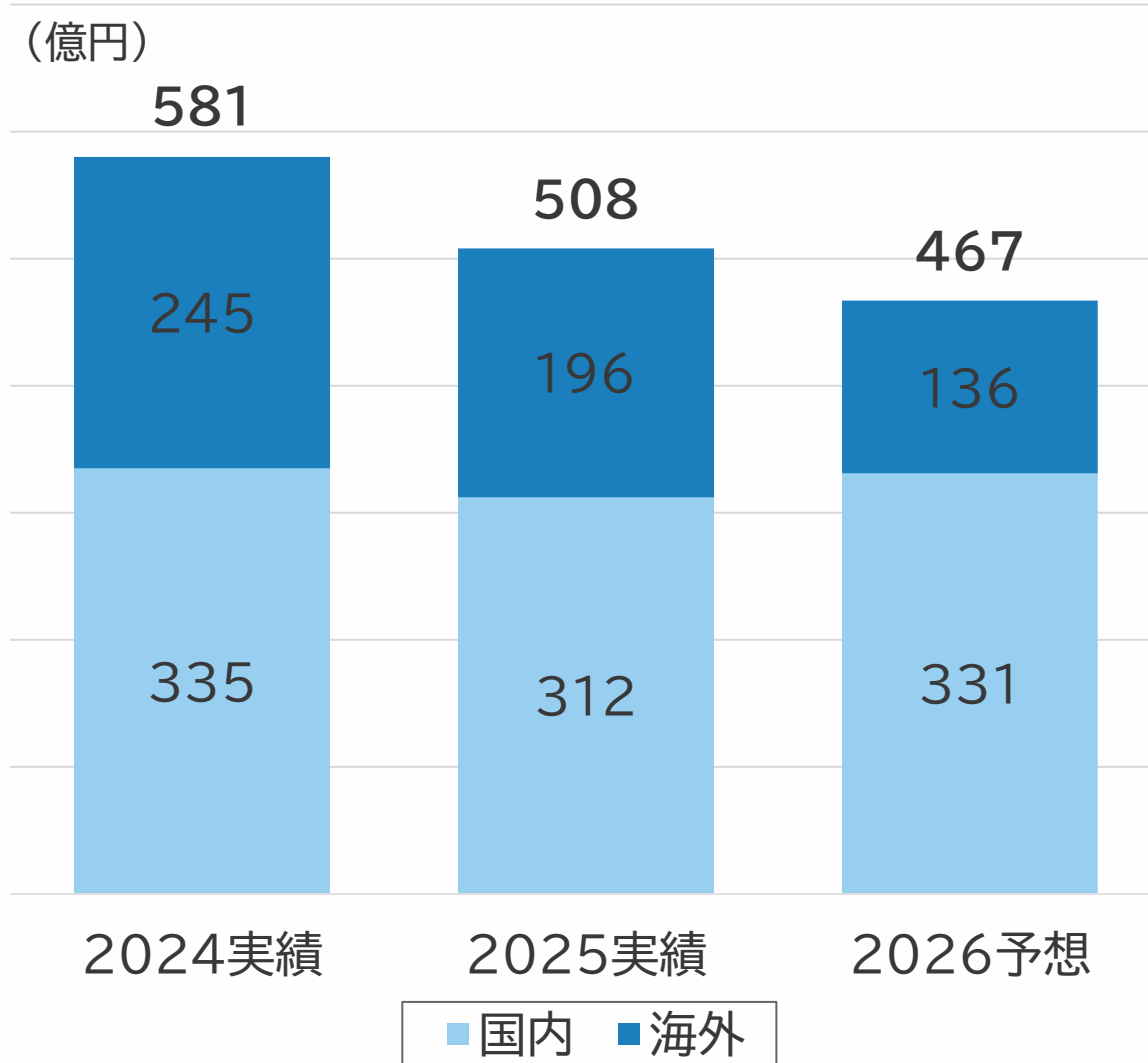
### ◆ 電子部品材料

電子材料は、順調に伸長する見通し。

### ◆ 導電性材料

海外向けで競争が厳しく、販売減少の見通し。

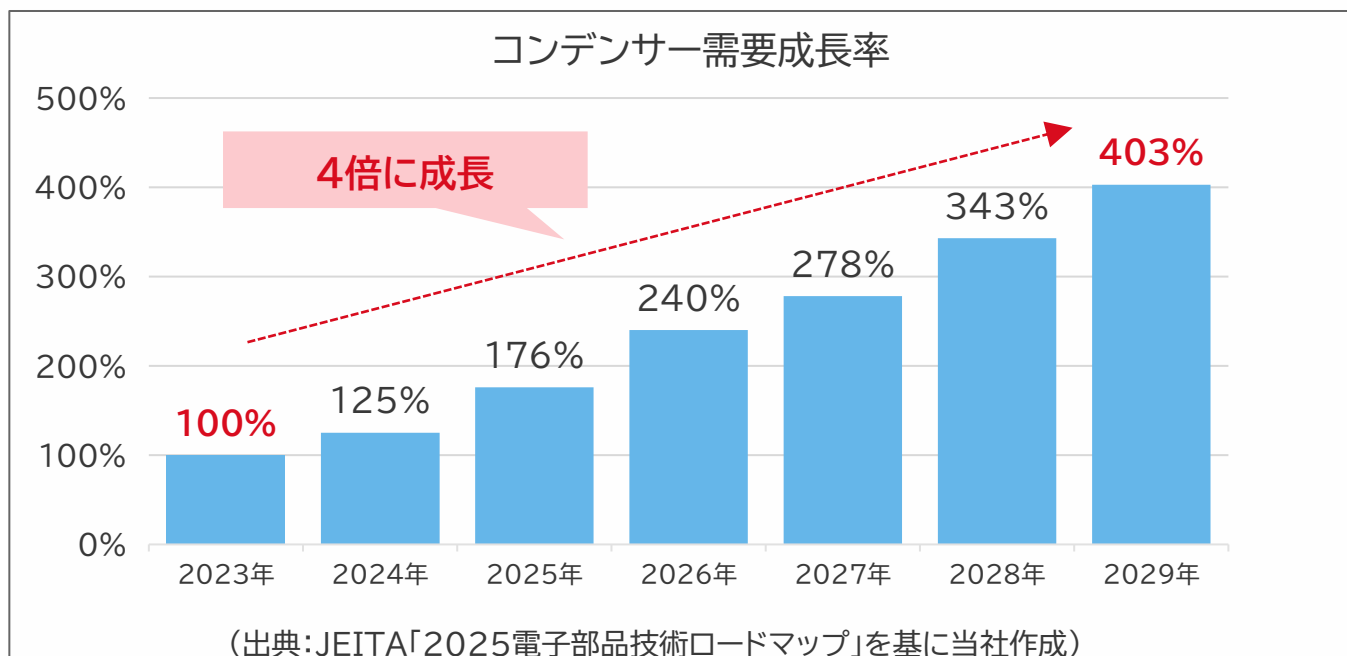
## <無機化学事業> ファインケミカル(酸化チタン) 地域別販売計画



- 国内向けは、建築需要の低迷が続くも、汎用酸化チタンの価格改定や拡販努力により、前年を上回る販売を確保する見通し。
- 海外向けは、安価な中国品流入による価格競争激化に加え、米国での汎用酸化チタン販売終了により減収の見通し。

## <無機化学事業> 電子機器向け高純度酸化チタン開発状況のご紹介

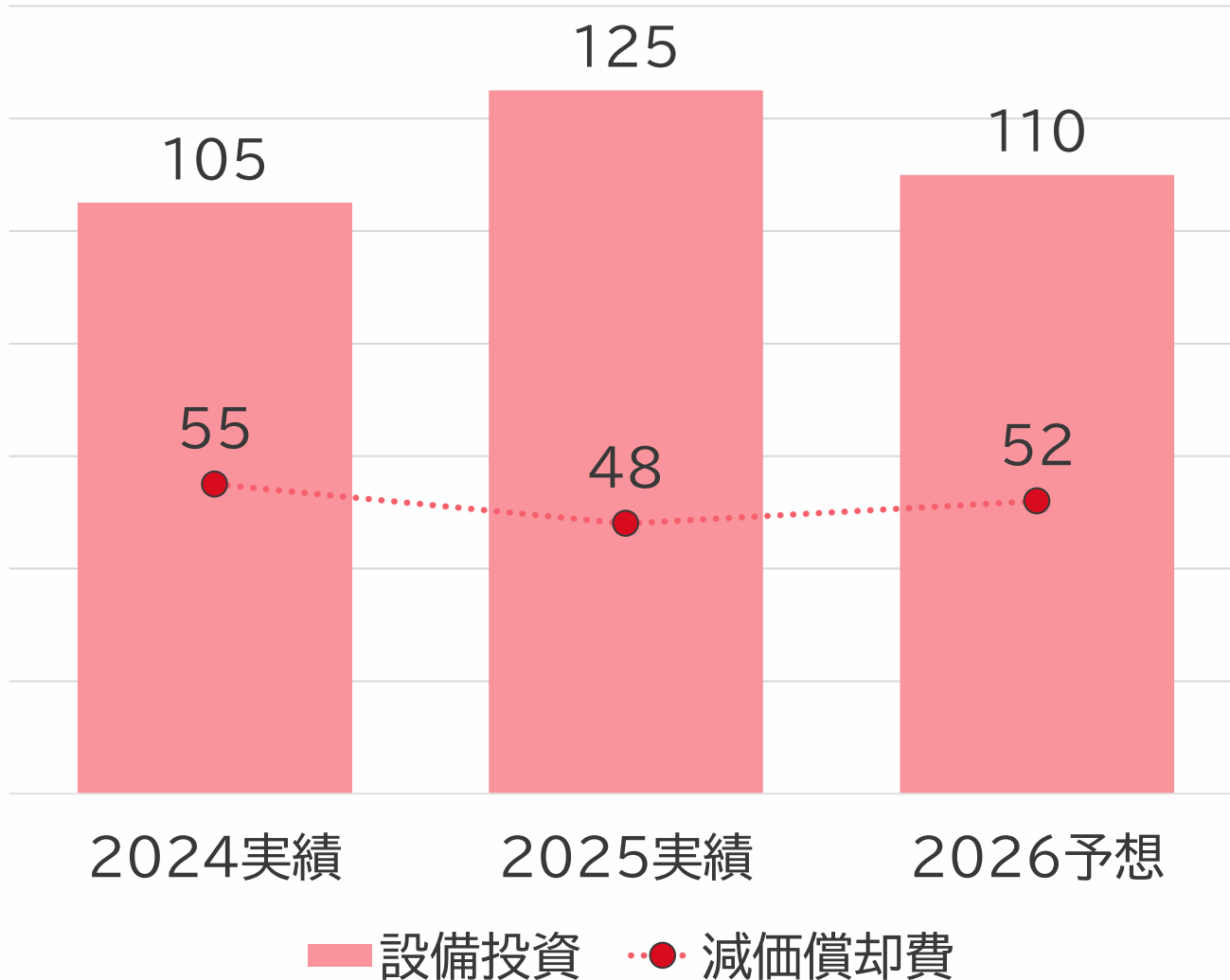
- 当社は、電子機器向け積層セラミックコンデンサ(MLCC)の材料となる高純度酸化チタンを製造しています。
- MLCCは、AIデータサーバーやスマートフォン等の幅広い電子機器に使用されており、機器の小型化・高性能化の進展に伴い、需要拡大が見込まれています。
- 当社は本分野を重点領域と位置づけ、小型化・高性能化ニーズに対応した材料開発を推進するとともに、高機能製品の供給強化に取り組んでまいります。  
(LU-677シリーズ、MPT-911ほか)



# 付属資料

# 設備投資・減価償却費

(億円)

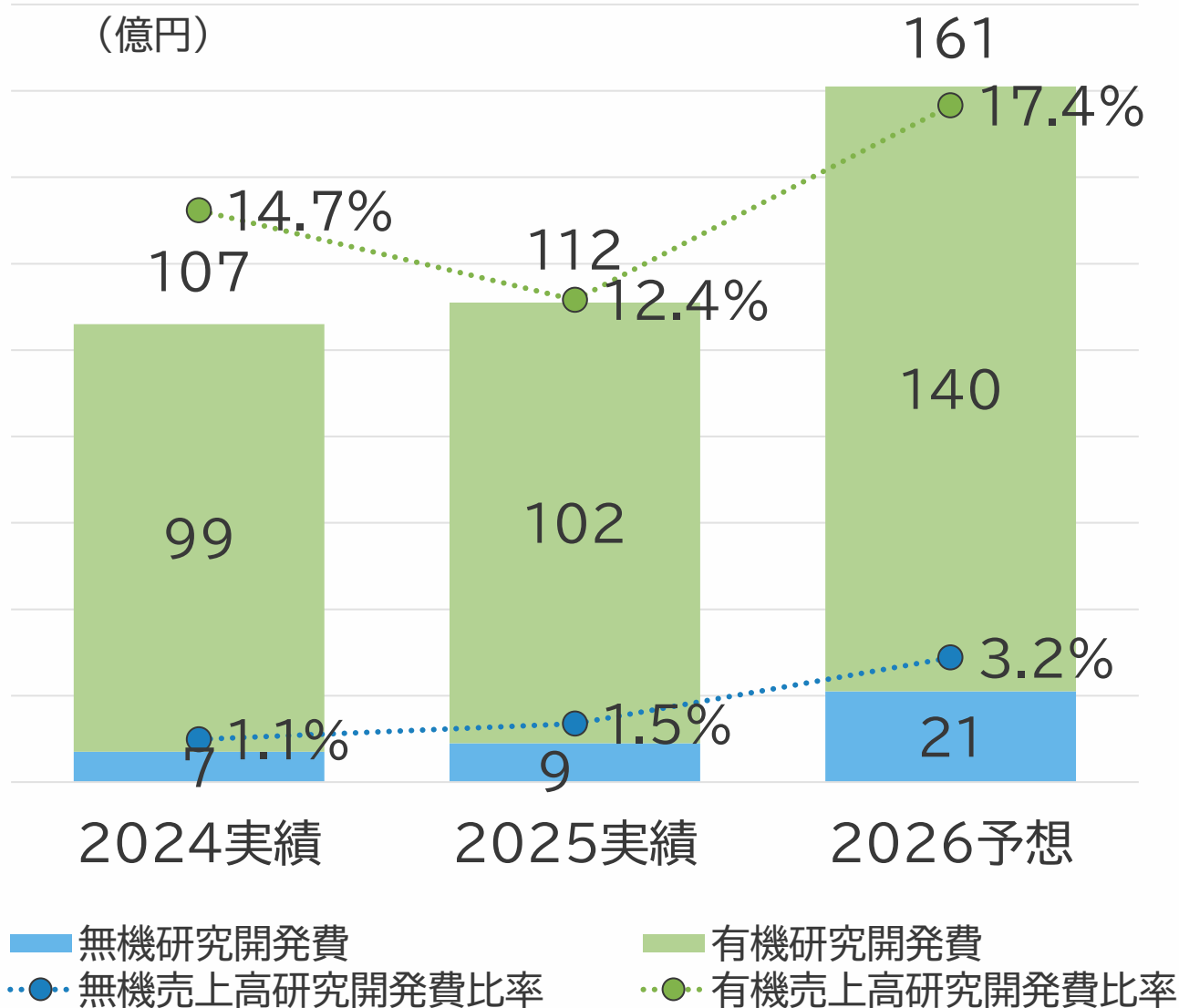


◆ 2026年度予想 設備投資額 110億円

主要な内訳

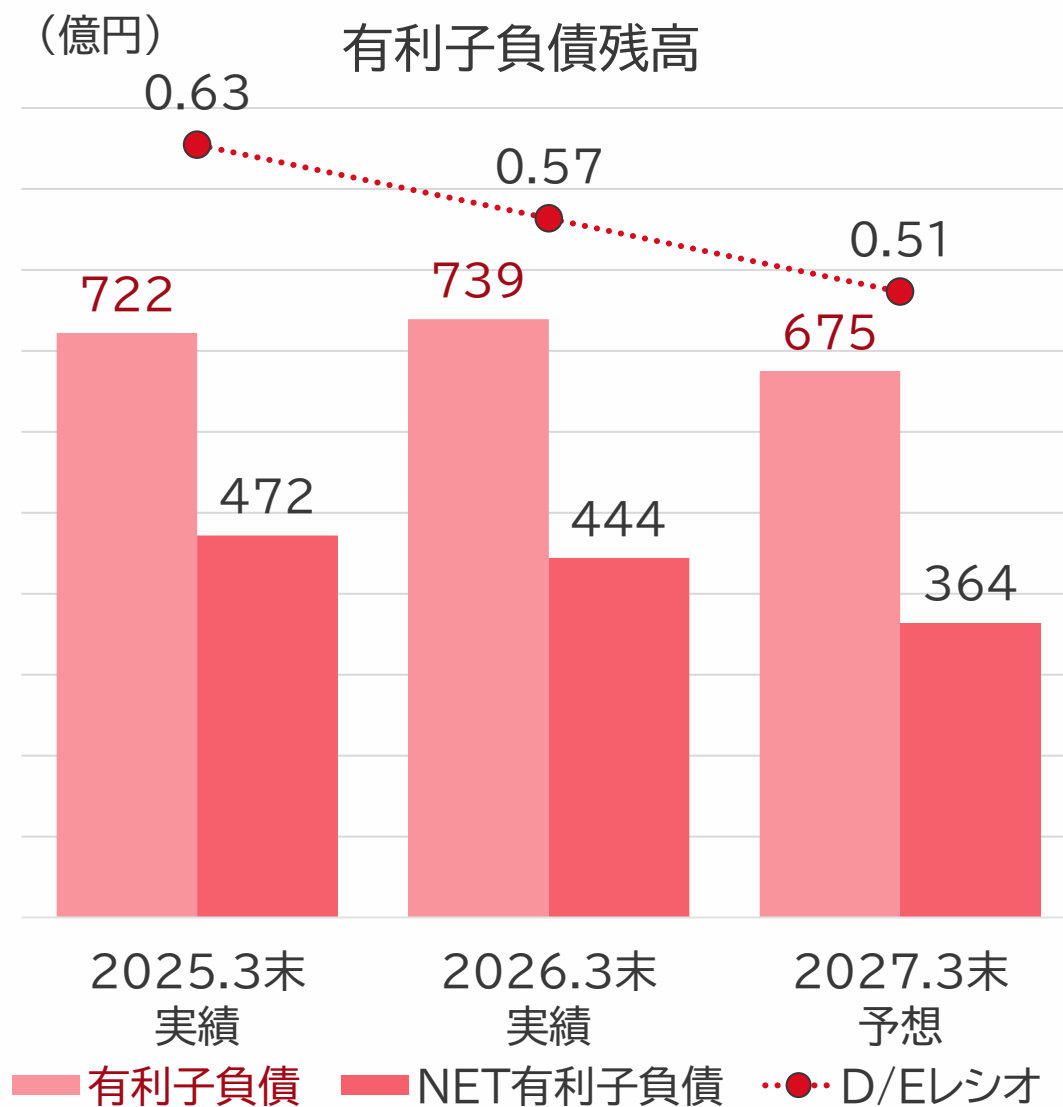
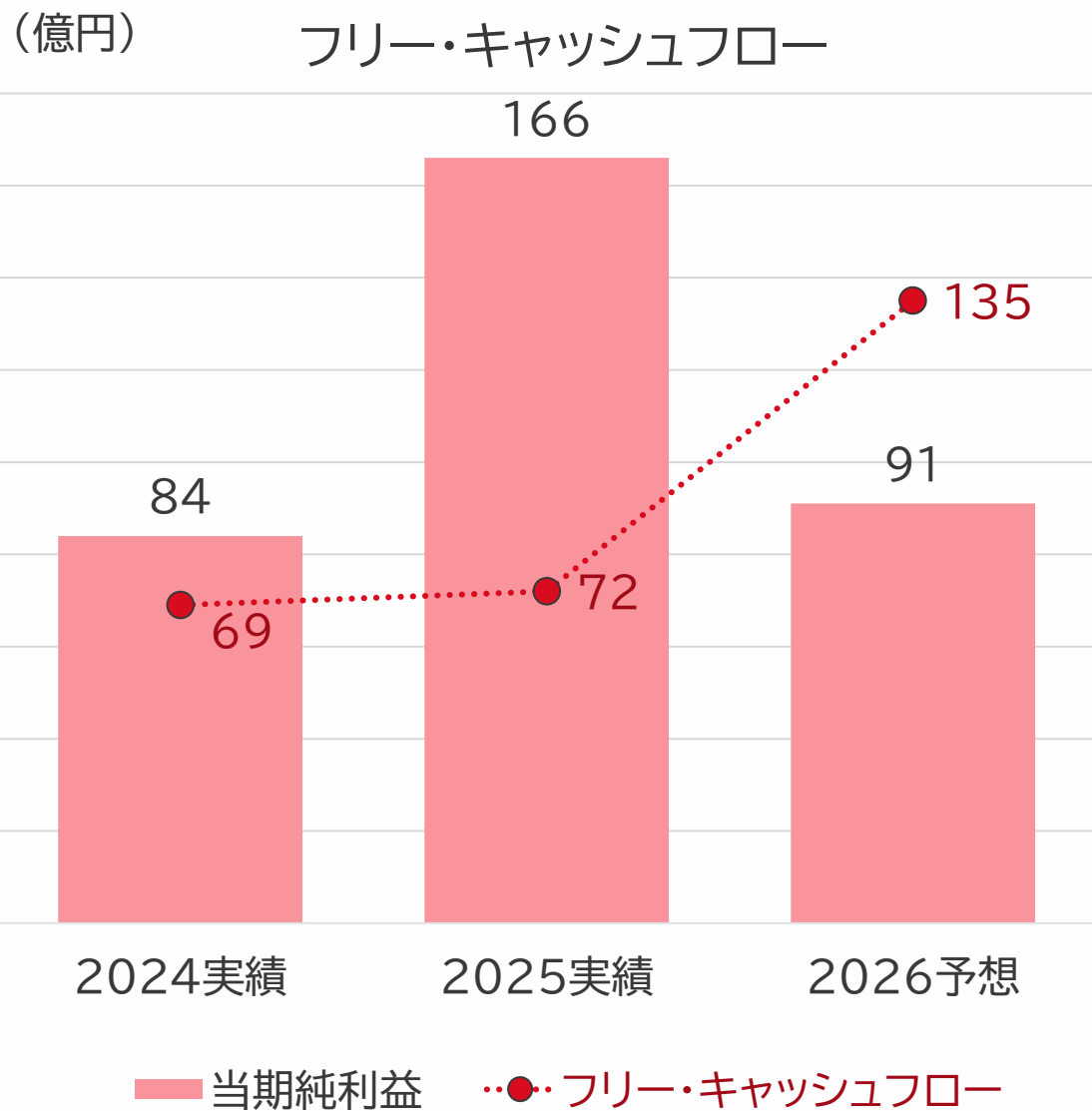
- サステナビリティ関連投資 (CO2排出量削減) 16億円
- 子会社:MFマテリアル 延岡工場Ⅱ期工事 11億円

# 研究開発費



- 農薬では、ひょうご小野研究センター稼働による支出増、農薬登録費用の前年度からの期ずれに加え、今年度は農薬新規剤共同開発費用の支出を計画している。
- ヘルスケアの研究開発費は、動物用医薬品の米国での開発スケジュール遅れのため、前年度を上回る見通し。

# フリー・キャッシュフロー 及び 有利子負債残高





## Local Insight, Global Impact

- ・将来見通しに関わる記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料には、公表時点での将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。日本及び海外の経済情勢・需要動向・競合状況・為替の変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と大幅に異なる可能性があることをご承知おきください。